

# 地域交流センター活動報告書

平成 26 年度



愛媛県立医療技術大学

# 目次

I 地域交流センターの設置目的及び機能	1
II 地域交流センター事業報告	
人材育成機能	
1. 卒業生と在学生の交流事業「ホームカミングデー」	4
2. 看護実践研究セミナー	14
3. 地域と学校が連携して進める思春期の健康づくり事業	18
4. 高校生の生命科学体験プログラム	26
5. 高校出張講座／メディカルトーク	28
6. おもしろ理科教室（学生祭）	31
7. 夏休みキッズひろば	34
8. 10周年記念ぼっかぼかまつり	36
9. とべ子育てフェスタ 2014 看護師・臨床検査技師“お仕事体験”	38
10. 「ラ・ファミリエ子どもの夢プロジェクト 2014 ～子どものいのちと体を守るお仕事体験～ “病院のお仕事体験”	47
11. リレーフォーライフ 2014	51
III 教員の社会貢献活動報告	
1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援	57
2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画	65
3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体への専門職や一般の方の相談対応	71
4. 患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援	76
5. 行政や各種関係団体に理事・委員等の活動	80
IV 学生の地域交流活動報告	
1. 学生ボランティア登録制度	98
2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流	101
V 地域への施設開放状況	106
VI 参考資料	
1. 地域交流センターの組織	109
2. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規定	110
3. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規定	112
4. 学生ボランティア登録サイトの開設について	114

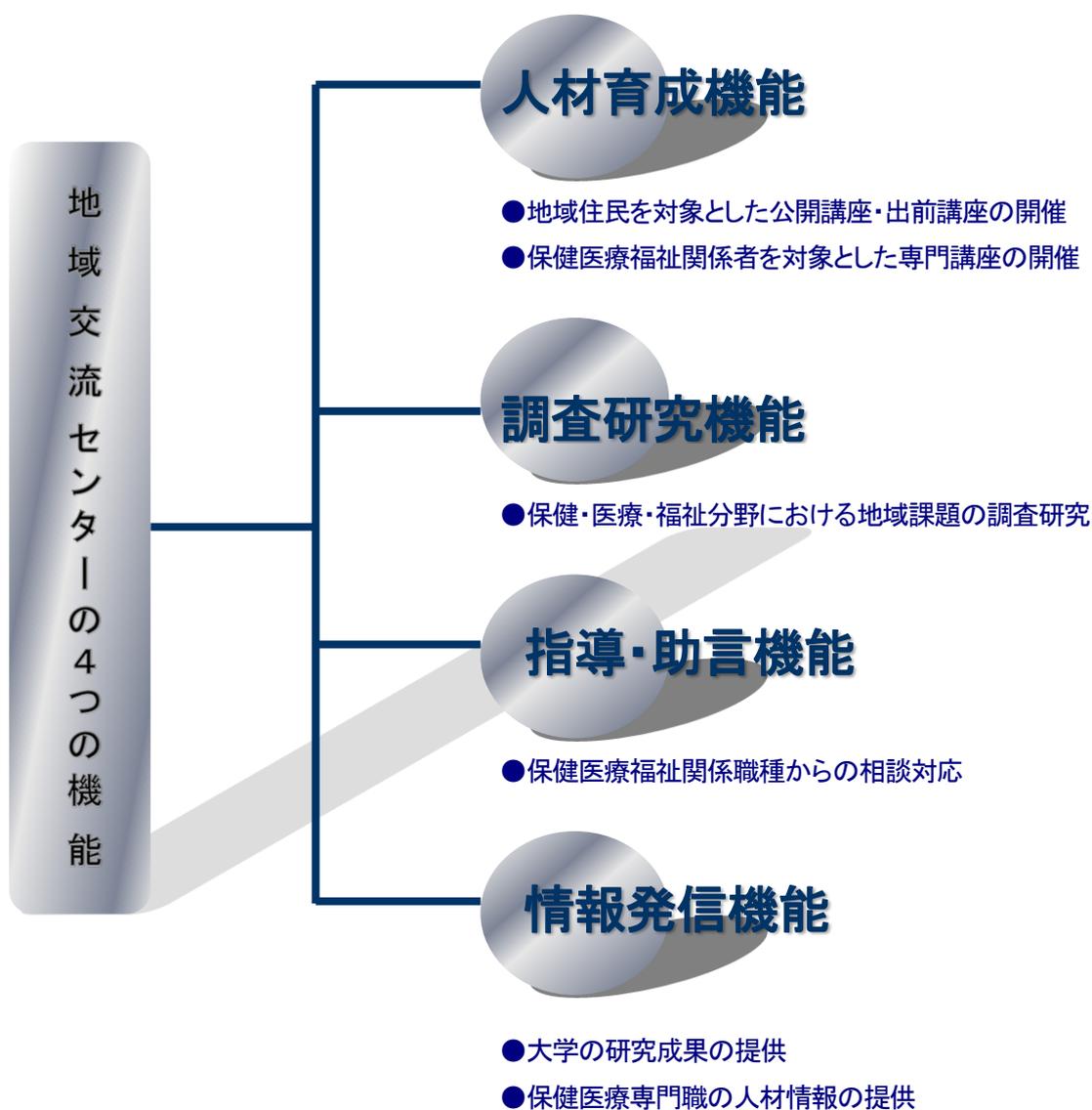
# I 地域交流センターの 設置目的及び機能

## I 地域交流センターの設置目的及び機能

### 1 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成16年4月に設置した。

### 2 地域交流センターの4つの機能



## Ⅱ 地域交流センター 事業報告

## II 地域交流センター事業報告

### 人材育成機能

#### 1. 卒業生と在学生の交流事業「ホームカミングデー」

(同窓会木蓮会との共催事業)

#### 平成 26 年度第 4 回 ホームカミングデー

##### 1. 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が、本学に帰ってきて旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、在学生の職業意識の向上を図る。

##### 2. 連携協力機関

同窓会と大学（地域交流センター・学生委員会）の共催事業とする。

##### 3. プロジェクトチーム

- サテライトホームカミングデー（保健師・助産師）を 5 月 10 日に実施した。
- 遠方の卒業生参加の便宜を図り、木蓮会総会開催日に併せて実施することとした。
- 特別講演を企画、その内容は職業の専門性ではなく、人間形成に係わるものとした。

##### 【実行委員会】

実行委員長：中越利佳

実行委員：地域交流センター員

センター員以外の実行委員

看護師分野：青木講師、窪田准教授、越智教授、梶原助教、宮宇地助教

助産師分野：上野准教授、中越講師

保健師分野：田中准教授、入野助教

臨床検査技師分野：坂東講師、升野教授

##### 【プロジェクトの進行】

平成 26 年 3 月 31 日 サテライト HCD プログラムの決定

分科会テーマ、ゲストスピーカーの決定

参加促進方策の検討

4 月 10 日 ゲストスピーカー、特別講師依頼文書発送

平成 24・25 年度卒業生（保健師・助産師）への HCD 参

加案内文書、チラシの発送

- 所属長への参加依頼協力文書発送
- 5月20日 7月5日 HCD 作業工程の確認、準備打ち合わせ  
ゲストスピーカーの決定
- 5月27日 ゲストスピーカー、特別講師依頼文書発送  
平成24・25年度卒業生（看護師・臨床検査技師）へのHCD参加案内文書、チラシの発送  
所属長への参加依頼協力文書発送
- 6月24日
- 8月 礼状発送、砥礪記事・センター報告書・木蓮会報記事作成

#### 4. 事業内容

##### 1) サテライトホームカミングデー（保健師・助産師）

(1) 日時 平成26年5月10日（土）10:00～12:30  
10:00～全体会・特別講演 11:00～分科会

(2) 場所 医技大キャンパス、116・117・216 講義室

(3) 参加者数 : 101名 内訳: 卒業生29名、在学生57名、教員15名

(4) 実施内容（講演要旨）

全体会行事：宮内学部長挨拶、豊田地域交流センター長講師紹介

特別講演講師：中窪優子氏

（国際協力母子保健専門家、愛媛県立医療技術短期大学2期生）

テーマ

「私の国際協力を振り返って」



助産師として病院勤務をされていた時に参加された国際学会で、初めて「国」、「世界」を意識されたこと。そして、青年海外協力隊員としての活動体験と現地の助産師の価値観の違いから「産婦の死」を経験され、国際母子保健の専門家を目指して大学院に進学し、研究を積み重ねたこと。国際協力機構（JICA）の母子保健専門家として、プロジェクトに関わってきた体験を多くの写真を見せていただきながら御講演下さいました。

「日本であろうと、海外の開発途上国であろうと、そこに母子がいる限り、母子の健康を守ることが私の仕事であり、ずっと関わり続けて行きます。」と言われた言葉に、中窪講師の母子の健康と幸せを願う強い情熱を感じました。国際舞台で活躍されている中窪講師の御講演は、夢と希望を持ち続けること、意志を持続させ、努力を続けることの大切さを私たちに気付かせていただきました。

## 「分科会テーマ」

分野	分科会テーマ	場所	ゲストスピーカー
助産師	国際協力-いち助産師として	南棟 117	中窪優子氏
保健師	保健師 2 年目の歩み	南棟 216	芝崎美菜見さん (2011 年卒) 臼杵市役所 大塚遙香さん (2012 年卒) 松山市保健所

(5) 参加者アンケートの結果 (回収率 65.3% 卒業生 16 名、在學生 51 名)

情報源・・卒業生①教員呼びかけ②案内文書・病院の勧め③チラシ  
在學生①教員呼びかけ②学内掲示・チラシ③ロコミ  
の順で多く回答があった。

講演・・「とても良かった」82%、「良かった」10%、9割以上の参加者の心に響く内容であった。

分科会・・卒業生は「卒業生と在學生が交流するとよい機会」、在學生は「先輩から参考になる話が聞けた」等よい評価であった。

内容意見：「いろいろな意味で知識と経験を増やせるようにしたい」(卒業生)

「普段と違う視点でお話が聞けて勉強になりました」(卒業生)

「先輩方の詳しいお話が聞けて良かったです。道はいくらでも開けると思いました」(在學生)

日程意見：日時場所は良かった。(95%)

看護も同日がよい

木蓮会総会と合わせてほしい

## 保健師分野

『保健師デビュー2年の歩み』

ゲストスピーカー：芝崎美菜見さん（2011年卒）大分県臼杵市役所

大塚 遥香さん（2012年卒）松山市保健所

（参加者数）在校生 33名、卒業生 10名、教員 7名



芝崎美奈見さん  
（臼杵市役所勤務）



大塚遥香さん  
（松山市保健所勤務）



保健師分野では、行政保健師として採用3年目を迎えた卒業生2名に活動の歩みを語っていただきました。グループに分かれた交流会では、担当業務や就職活動についての話題で盛り上がりました。

## 助産師分野

『国際協力-いち助産師として-』

ゲストスピーカー：中窪優子氏

（参加者数）在校生 24 名、卒業生 19 名、教員 8 名



参加者から寄せられる  
多くの質問に丁寧に答え  
られる中窪優子氏



当大学卒業生で、現在、国際協力機構（JICA）で国際的に活躍されています中窪優子さんの  
仏語からの挨拶で始まった特別講演の内容から引き続き具体的な活動内容を講演していただき  
ました。参加者の卒業生、在校生を含め 51 名の参加者は、国際的に活躍する意味、また、求め  
られている助産師像に将来の自分の姿を想像しながら、夢を描き、聴いていました。何歳にな  
っても助産師としての道は開くと感じられたとても意義ある分科会でした。

## 2) ホームカミングデー（看護師・臨床検査技師）

- (1) 日 時 平成26年7月5日（土）10:00～12:30  
10:00～全体会・特別講演 11:00～分科会
- (2) 場 所 医技大キャンパス、116・117・216 講義室
- (3) 参加者数 : 94名 内訳：卒業生 34名、在学生 36名、教員 23名
- (4) 実施内容（講演要旨）

全体会行内学部長挨拶、豊田地域交流センター長講師紹介

特別講演講師：小谷信行 氏

松山赤十字病院副院長

テーマ

「医療人となる後輩へのメッセージ」



「私は着付けのできる小児科医です。」から始まった小谷先生の御講演。先生の海外での御体験を紹介していただきながら、日本の文化をアピールすることの重要性を説明されました。それは、医療の世界でも同様であり、優れた日本の医療は、海外で異色を放ち、注目されるそうです。先生は、松山赤十字病院成育医療センターを立ち上げられ、日本で初めて胎児期から継続した医療システムの確立と心理カウンセラーの養成に尽力され、多くの子どもとその家族を支援されてきました。そして、来年からイギリスで、胎児期から継続した医療システムの導入と人材養成プログラムに着手されるそうです。

先生は自らの体験を語られる中で、「できない」のはその人の能力が足りないのではなく、「どうしたらできるようになるか」といった具体的な行動がイメージできるような言葉を伝える技術が足りないからであると言われました。そのためには、人は人と繋がっていること、孤立させてはいけないということを強調されました。

複雑な人間社会で、自分を守り、他者と繋がっていくための3カ条を教えてくださいました。一つ目は、「自尊心」を持つこと。自分という人間を正しく評価すること。良い点も悪い点も含めて自分自身を認めることができること。二つ目は、「ソーシャルスキル」。大切な言葉を絶妙なタイミングで伝えることができる技術。三つ目は、「嫌なことは嫌」と伝えることができる技術だそうです。コミュニケーションスキルを鍛え、自己の自尊心を大切にするだけでなく、目の前にいる患者様やご家族の方の自尊心が高められるような技術を持った医療人となるように努力をしていかなければならないと強く思った御講演でした。

## 「分科会テーマ」

分野	分科会テーマ	場所	ゲストスピーカー
看護師	期待される看護師をめざして!!	南棟 117	柴谷美奈恵さん (2013 卒) 西神戸医療センター 木村美里さん (2012 卒) 愛媛県立中央病院
臨床検査技師	何を求めて進んで行ったのか?	南棟 216	政安直樹さん (2012 年卒) 箕面市立病院 川崎章平さん (2013 年卒) 九州大学大学院医学系学府保健学専攻検査 技術科学分野

## (5) 参加者アンケートの結果 (回収率 72.9% 卒業生 22 名、在校生 29 名)

情報源・・・卒業生①案内文書②職場からの勧め③教員呼びかけ  
在校生①学内掲示・チラシ②教員呼びかけ③口コミ  
の順で多く回答があった。

講演・・・「とても良かった」66%、「良かった」25%、9割以上の参加者の心に響く内容であった。

分科会・・・「先輩・卒業生のお話が聞けてとても楽しかった」、「業務の具体的なイメージができて良かった」、「卒業後の進路選択の参考になった」等よい評価であった。

内容意見：「スキルや方法といった具体的なことが聞けて良かった」(卒業生)

「小谷先生のお話から学んだことをこれから勉強していく中で意識したい」  
(在校生)

日程・その他意見：

開催時期・日程は良かった。(94%)

もう少し早い時期に開催してほしい (在校生)

参加者の名札があるとよい (在校生)

分科会

**看護師分野**

『期待される看護師をめざして!!』

ゲストスピーカー：柴谷美奈恵さん（2013年卒）西神戸医療センター勤務

木村美里さん（2012年卒）愛媛県立中央病院勤務

〈参加者数〉 卒業生 26名、在校生 24名、教員 13名、愛媛県庁公営企業管理局 1名



看護師1年目の歩みを語られた  
柴谷美奈恵さん（西神戸医療センター勤務）



看護師に必要なコミュニケーション能力について自らの経験を語られた木村美里さん  
（愛媛県立中央病院勤務）



卒業生2名による講演があった。就職2年目の柴谷さんは、就職して歩んだ1年間を月ごとに自己目標を提示しながらわかりやすく説明した。不安はみんな一緒であること、わからないことは聞くことなど在校生にアドバイスをした。就職3年目の木村さんは、現在までの歩みを紹介した。臨床体験から期待される看護師とはコミュニケーション力をもった看護師であると看護観を話し、対象者別にコミュニケーションのあり方を伝えた。在校生は真剣に聴講しており、就職後のイメージ形成に役立つ内容であった。

## 臨床検査技師分野

『何を求めて、進んでいったのか?』

ゲストスピーカー：政安直樹さん（2012年卒）箕面市立病院勤務

川崎章平さん（2013年卒）

九州大学大学院医学系学府保健学専攻検査技術科学分野

〈参加者数〉 卒業生 8名、在校生 12名、教員 5名



政安直樹さん（箕面市立病院）



川崎章平さん（九州大学大学院）



ゲストスピーカーの講演を熱心に拝聴する参加者



盛り上がる座談会。恩師も交えて……。話が尽きません。

## 5. 評価と課題

### 1) ねらい・成果

卒業生にとって、旧交をあたため、在校生と交流するとても良い機会であると評価している。在校生にとっては、卒業後の進路選択の参考となる等評価であった。

### 2) 広報戦略

次年度も卒後1・2年生を対象に、職場上司と本人に案内文書を送付する。

### 3) 運営・開催日程

次年度のサテライトホームカミングデーは中止し、HCDは1回の開催とする。開学記念日に近い6月20日前後の土曜日を予定する。HCD当日の卒業生の図書館の利用については、次年度検討する。特別講演は、学生・卒業生に話をしてほしい人を呼ぶ、講師が卒業生であっても良い。必ず誰かを呼ぶということではなく、適切な講師が見当たらない場合は、分科会だけでもよいとする等の柔軟な対応を行う。

## 2. 看護実践研究セミナー

### 看護実践研究セミナー

#### 1. 概要

本企画は、愛媛県内において看護の臨床や教育現場で看護に関わっている看護職などを対象に、講師を招いた受講者参加型セミナーを開催することで、臨床における看護実践や研究力の向上を支援し、看護職の技術や研究力向上に寄与しようとするものである。

#### 2. 実施主体

愛媛県立医療技術大学（地域交流センターおよび看護学科）

#### 3. プロジェクトメンバー

地域交流センター員、看護学科教員

#### 4. 事業内容

\*本事業では、臨床現場の看護職が求めている看護研究の知識と実践について、初心者向けセミナーと実践版セミナーの2つのセミナーを実施した。

##### 1) セミナー1 「看護実践に活かす質的研究 データ分析と概念図作成に焦点を当てて」

(1) 日時 平成26年8月11日9:30~15:30

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 南棟117教室

(3) 参加者数 看護師7名、保健師1名、教員5名、教職員厚生室1名、無回答2名、学内教員30名、学部学生25名、大学院生4名 計76名

(4) 実施者と実施内容（講演内容）

実施者 聖路加国際大学教授 萱間真美先生

実施内容 受講者参加型の公開講座形式（実践研究の例、分析や概念図の実際）



【萱間先生による講義】



【グループワークの様子】

## (5) 参加者の反応（アンケート結果）

セミナーの感想：

- ・ 萱間先生の体験も含めた具体的な講義だったので、とても良く理解できました。
- ・ スライスの仕方が一部分理解できた。
- ・ 先生の人柄に触れ、研究に対しての意欲が沸いた。
- ・ インタビューの方法やデータのスライスの方法について、演習を通して説明していただき、よく理解することができました。
- ・ 提出（事例）されたデータは貴重なものだと思うが、本論になるところを抽出した方が演習の理解が深まったのではないかと思った。
- ・ 議題の事例は難しく、理解に至るまでいきませんでした。もう少し分かりやすい事例でもよかったのかなと思います。

今後セミナーで実施して欲しいこと：

- ・ 事例検討、事例研究
- ・ リフレクション
- ・ 研究経験者を対象としたスキルアップ研修を希望します。（対象者のレベル別の研修）
- ・ 量的研究のセミナーもお願いします。
- ・ 量的研究で有名な先生、クレイグル先生を呼んでいただきたい。
- ・ プレゼンテーションの仕方
- ・ 実践の場での介入研究で気をつけたいことなど
- ・ 文献管理ツールの使用方法について
- ・ 論文作成方法
- ・ グループ研究、共同研究の方法

## 2) セミナー2 「看護実践に活かす質的研究：データから発見・創造を導く質的統合法」

## (1) 日時 平成26年8月18日、19日

1日目 9:00～19:00

2日目 9:00～17:00

## (2) 場所 愛媛県立医療技術大学 南棟117教室

## (3) 参加者数 看護師3名、学内教員14名、大学院生1名 計17名

## (4) 実施者と実施内容

実施者 千葉大学看護学部特命教授 山浦晴男先生

実施内容 質的統合法（KJ法）を看護研究に活かすための理論と演習

質的研究の実態把握法である質的統合法（KJ法）は、実際に体験しないと理解できない方法である。質的研究の進め方と質的統合法（KJ法）の演習体験により、質的統合法について理解し、看護実践に役立てる。



【山浦先生による講義】



【発表の様子】

## (5) 参加者の反応（アンケート結果）

### セミナーの感想：

- ・表札づくりや配置は難しくて悩みましたが、自分の中で「こうなのかな」と思っていた時はとても楽しかったです。他者との結果にずれもあり、先生に解説していただきたかった。
- ・今回の新たな発見は、研究のためと思っていたプロセスと実践の問題解決のプロセスが同じであることを改めて感じ、何にでも使えると思いました。
- ・もっと完成度が高いものができればとても楽しいと思いました。ただ、今は正直苦しかったと感じています。
- ・データの語りを聞くのが難しかった。語りを聞けず、こちらで解釈し、図式化したと気付いた時の恐怖と、質的発想法の難しさを知りました。
- ・時間は守ってほしい（特に終了時間）。後に支障が出るので、ちゃんとコントロールしてほしい。

### 今後セミナーで実施して欲しいこと：

- ・演習を含めたセミナーがいいです。また、継続的に受講できるようであればよい。
- ・量的研究について
- ・文献管理ツールについて

## 5. 評価と課題

本セミナーは、事例をもとに質的研究の具体的な方法を学ぶ内容であり、セミナー1では外部から看護師、他学の教員など多くの参加が得られた。しかし、セミナー2では外部からの参加は看護師が3名のみであった。セミナー終了後のアンケートの結果、本セミナーの内容に対する理解度や期待度の違いが見られた。また、今回のセミナーの継続受講や、新たに量的研究のセミナーの企画の希望もあり、次年度の企画の参考となった。一方で、受講者は予定人数を下回る結果となった。その原因として、セミナーの告知の方法が適切ではなかったことやセミナーの告知がセミナー開催を間近に控えた時期になってしまったことが考えられる。さらには、今回、2つのセミナーの開催

までの期間が1週間しか空いておらず、かつ平日の開催であったため、受講できなかった方がいることも考えられる。

次年度、セミナーの内容は段階別やシリーズ化を含めて検討する。また、セミナーの告知方法を検討し、勤務の調整が可能な時期に告知することにより、より多くの方の参加を募る。

### 3. 地域と学校が連携して進める思春期の健康づくり事業

平成 26 年度第 1 回思春期保健スキルアップ研修会

#### 1. 趣旨または概要

##### 1) 目的

思春期保健に携わる関係者が、他機関の性教育を含めた思春期の健康づくりの取り組みについて知ることができる。また、思春期の子どもたちがコミュニケーション力、性行動の自己決定力を育み、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点に沿って、他機関と連携、協働し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための連携、協働の足がかりの場とする。

##### 2) 対象者

管内の市町保健師・小学校、中学校、高等学校養護教諭、教諭・PTA 代表者等  
思春期保健対策に携わる関係者

#### 2. 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県中予保健所  
共催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

#### 3. プロジェクトメンバー

愛媛県中予保健所 感染症対策係 森眞弓 宇都宮美和  
難病・母子保健係 徳弘美智江 正岡田江子  
愛媛県立医療技術大学 上野恭子 中越利佳 豊田ゆかり

#### 4. 事業内容

##### 1) 日時

平成 26 年 8 月 21 日 13:00～16:30

##### 2) 場所

愛媛県立医療技術大学 南棟 1 階 117 教室

##### 3) 参加者数

19 名

※参加者内訳 市町保健師 3 人、中学校養護教諭 5 人  
愛媛県立医療技術大学 3 人 本学学生 1 人  
中予保健所 6 人

##### 4) 実施者と実施内容

(1) 話題提供「ライフサイクルを通じた性教育の取り組みについて」

###### ①保健の立場から

砥部町保健センター 保健師 田中彩

###### ②教育の立場から

砥部町立広田小学校 養護教諭 伊達 陽子

③保健所の立場から

中予保健所 難病・母子保健係 保健師 正岡田江子

(2) 講演 「ライフサイクルを通じた性教育の必要性について」

講師 愛媛県立医療技術大学 助産学専攻 准教授 上野恭子

今回の実践報告の分析から、対象が思春期にのみ焦点があたり、前後の継続的な目標設定ができていないこと。ライフサイクルに通じた性教育と思春期保健における性教育を含めた思春期の健康づくりの位置づけをどう考えていくかについての講演であった。ライフサイクルをとおして新生児期から小児期、思春期、成熟期、更年期それぞれの課題と支援について地域と学校と保健所、医療機関が連携し、啓発・組織化・支持・研究・情報提供をつなげていくかについて具体例を示されながら説明された。最後にハーバード大学マーシャル・ガンツ博士の「聴き手に響く自分の物語を!」を紹介され、思春期の子ども達の心に響く教育は自分の物語を語ることでであると話された。

(3) 意見交換・グループワーク

① テーマ

「学校・地域・家庭が連携、協働、継続してライフサイクルを通じた性教育を行っていくために、どんなことができるか考えよう」

② 方法

付箋を用い、講話や話題提供を聞いて、学校・地域・家庭が連携、協働、継続してライフサイクルを通じた性教育を行うことについての課題や今後の方向性などについて話し合った。また、ワールドカフェ式で、自分のグループから一時離れて、それぞれのグループに入り、自由な意見交換を行った。

③ まとめ

愛媛県立医療技術大学助産学専攻 准教授 上野恭子

(4) 参加者の反応

非常に熱心に話題提供と講演を聞かれていた。グループワークでは、90分のグループワークの時間でも足りないほど、活発な意見交換が行われ、性教育に対する意識の高さがうかがえた。

(5) 研修会の写真

① 開会の挨拶



中予保健所  
荒木 周一郎 健康増進課長

② 話題提供



砥部町保健センター 田中 彩 保健師



砥部町立広田小学校 伊達 陽子 養護教諭



中予保健所 健康増進課  
正岡 田江子 保健師

③ 講演 (愛媛県立医療技術大学 助産学専攻 上野恭子准教授)



④ 意見交換・グループワーク



## 5. 評価と課題

各機関の思春期教室の取り組み状況を共有する中で、現状は様々であったが、それぞれの立場で今後の取り組みや課題等について検討、共有することができ、今後、他機関と連携、協働し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施することの意義や必要性を確認できた。

今回の研修会では、ライフサイクルを通じた性教育という視点で、思春期に限らず、こどものライフサイクルをとおした性教育のあり方や、保健センターをコーディネーターとした思春期教室を小学校と中学校をとおして一貫した内容で実施する試みや小学校中学校の健康手帳の有効活用等の可能性が話し合われた。また、性教育の成果を評価することが難しく、事業として縮小せざるおえない状況に至っては、今までの活動に対する生徒の感想文や性教育の内容を科学的に分析、評価していくことの必要性が課題としてあげられた。

今後も、思春期教室にあたる支援者のスキルアップや、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点に沿って、他機関と連携、協働し、組織的かつ継続的に思春期教室が実施できるよう、継続して研修会を開催していきたい。

## 6 資料

### 1) 話題提供

「砥部町における思春期教室の取り組み～保健の立場から～」

話題提供者 砥部町保険健康課 健康増進係 保健師 田中 彩

「広田地区思春期教室の歩みとこれから」

話題提供者 砥部町立広田小学校 養護教諭 伊達 陽子

「中予保健所における思春期保健対策の取り組みについて」

話題提供者 中予保健所健康増進課 難病・母子保健係  
保健師 正岡 田江子

### 2) 講演抜粋 「ライフサイクルに通じた性教育の必要性」

講師 愛媛県立医療技術大学助産学専攻科 上野恭子准教授

## 平成 26 年度第 2 回思春期保健スキルアップ研修会

## 1. 趣旨または概要

## 1) 目的

思春期の子ども達の自尊感情を高め、思春期の心と体の健康づくりの視点に立ち地域と学校が連携・協働・継続して性教育を推進するための研修会やモデル事業の取り組みについて検討する。他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりとする。

## 2) 対象者

管内の市町保健師・小学校、中学校、高等学校養護教諭、教諭・PTA 代表者等  
思春期保健対策に携わる関係者

## 2. 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター  
共催 愛媛県中予保健所 健康増進課  
難病・母子対策課、感染症対策課

## 3. プロジェクトメンバー

愛媛県立医療技術大学：上野恭子 豊田ゆかり 中越利佳  
愛媛県中予保健所 感染症対策係：森真弓 宇都宮美和 滝澤加代子  
難病・母子保健係：徳弘美智江 正岡田江子

## 4. 事業内容

## 1) 日時

平成 27 年 3 月 13 日 13:00～16:30

## 2) 場所

愛媛県立医療技術大学 南棟 1 階 117 教室

## 3) 参加者数 23 名

※参加者内訳 市町保健師：5 名、高等学校養護教諭：1 名、中学校養護教諭：4 名  
小学校養護教諭：3 名 愛媛県総合教育センター：1 名  
中予保健所：5 名 愛媛県立医療技術大学：4 名

## 4) 実施者と実施内容

## (1) 話題提供

「第 1 回思春期保健スキルアップ研修会まとめと中学生への思春期教室開催後の評価」  
中予保健所 難病・母子保健係 保健師 正岡田江子

## (2) 講演 「何を目指して性教育を行うのか？学校・地域・大学が連携した性教育の取り組みの実際と評価」

講師 愛媛県立医療技術大学 助産学専攻 准教授 上野恭子

性教育は、人間としての総合的な教育であり、子ども達自身が自分自身の健康に関心を持つこと。すなわち子どもの成長に合わせた教育を行う必要性があること。そのためには、それぞれが行っている性教育が別個に点として存在するのではなく、子ども達が自分の生きる方向性を見極められるように線としてつないで

いく必要性を強調された。

砥部町での保護者を巻き込んだ性教育の実践例を紹介されながら、性教育の線をつなぐ役割を担っている基盤が家庭であり、保護者への関わり方が今後の課題であることを話された。また、集団指導では解決できない子ども達が増加しており、個別対応システム化の構築や男子生徒への性の指導の在り方が今後の課題であることを説明された。

### (3) グループワーク

#### ① テーマ

「性教育の樹を描いてみよう！」

どんな大人に育てたい？何のために性教育する？性教育の原点は？

性教育の樹を育て、豊かな実をつけるための望ましい土壌は？性教育の樹を支える幹は何？ それぞれの立場での目指すものを自由に描いてみる。

#### ② 方法

4 グループに分かれ、それぞれが思い描く性教育とは？そのために何が必要か、何を行えばよいか等を自由に意見を出し合いながら、思春期の性教育が目指すものと学校・地域・家庭との連携の必要性、性教育の連続性について話し合った。

#### ③ まとめ

愛媛県立医療技術大学助産学専攻 准教授 上野恭子

### (4) 参加者の反応（アンケートの自由記載より）

- ・ グループワークでは、「こうあってほしい」という所が自分なりにまだまだボンヤリしているということが客観的に知る機会となり、よかったです。
- ・ ライフサイクルを通した性の健康づくりを他機関と一緒に目指す姿に向けて、楽しく学び、知恵を出し合えたことが何より楽しかったです。（取り組みに前向きになれたことが）
- ・ 体制を作ることが困難だと感じるが、可能な範囲で継続したい。
- ・ 上野先生の講演で、明確な目標を提示していただき、頭がスッキリする思いがした。グループワークでは、他の3班の意見もそれぞれ勉強になるものでした。正岡さんの発表でもあったように、生徒の感想などから課題や成果を見つけていきたい。
- ・ 関係機関（保健所）の方の考え方やそれぞれの立場でできることを知ることができました。積極的に継続して性教育に取り組みたいと思います。
- ・ 上野先生の御講演で、今後の町の取り組みの方向性を整理することができました。評価について詳しく触れていただき、今後の方向性について持ち帰って、次年度の活動に活かせるなと思いました。

(5) 研修会の写真

- ① 話題提供 (中予保健所 健康増進課 正岡田江子 保健師)



- ② 講演 (愛媛県立医療技術大学 助産学専攻 上野恭子准教授)



- ③ グループワーク



## 5. 評価と課題

思春期保健スキルアップ研修会は、平成 25 年度から今回で第 3 回目を終了した。この研修会をとおして中予保健所管内の小・中・高等学校の養護教諭と各町の保健センターが日頃抱えている思春期の問題や課題を話し合い、学校・地域・大学がそれぞれの立場で連携する足掛かりができたと評価できる。参加者の中には、この研修をとおして、思春期教室を町の保健センターと学校で再開させようとする動きや、他町の思春期教室の取り組みを導入しようとする動きも出ており、着実に研修の成果が出てきている。

研修後アンケートからも参加者の評価は高く、今後も継続して研修会を開催してほしいとする要望も多い。今後は、子どもたちの成長・発達に合わせた思春期教育の連携・協力体制強化のためのシステム構築や保護者への指導等の研修会を継続して開催し、思春期保健のスキルアップ向上を目指す。

## 4. 高校生の生命科学体験プログラム

平成26年度 サイエンスパートナーシップ・プロジェクト

えひめ高校生サイエンスチャレンジ 生物コース

生命科学体験プログラム「ストレスに適応する生体の機能 ―消化と吸収―」

### 1. 概要

#### 1) 目的

生命科学の分野で、実際に動物を用いる生理学実験は、高等学校生徒（特に、生命科学、医療系の分野を志す生徒）にとって、たいへん興味関心が高いものである。しかし、生きた生物を用いた生理学実験は、高等学校現場ではほとんど実施されていない。そのような状況下で、昨年度に引き続き「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」（生物コース）の開催協力依頼が愛媛県総合教育センターから、本学地域交流センターにあった。高等学校生徒の知的探究心に応えるため、今年度も前年度と同じテーマの生命科学体験プログラム「ストレスに適応する生体の機能」を愛媛県総合教育センターに協力して実施することとした。前年度はストレスに対する多くの生理的反応を測定するバラエティーに富んだプログラムとしたが、今年度は消化器系の反応に実験を絞ることで、ヒトが身近に体験している現象を科学的に証明していく内容とした。

#### 2) 対象者

県内国公立高等学校生徒

### 2. 主催 愛媛県総合教育センター、地域交流センター協力

#### 1) 講師 野島一雄 准教授

#### 2) TA 山田健人、武智大夢、今井美咲、村下みのり（臨床検査学科3年）

### 3. 事業内容

#### 1) 日時

平成26年7月12日（土）、7月13日（日） 9:30～16:30

#### 2) 場所

愛媛県立医療技術大学医用工学実習室，臨床生理学実習室

愛媛県立医療技術大学 356 講義室

#### 3) 参加者数

県内国公立高等学校生徒 21 名（参加校 6 校）、同教員 8 名

#### 4) 実施内容

##### (1) 開会式

① 開会の挨拶 升野博志（臨床検査学科長）

② 講師・TA 紹介

③ スケジュールの説明・注意 丸尾秀樹（総合教育センター教科教育室室長）

- (2) 講義
  - ① 動物実験に関する教育訓練 野島一雄
  - ② 各実習のねらい 野島一雄
- (3) 実習
  - ① ラット頸部、胸腹部の解剖
  - ② 消化管における糖質と水分の吸収部位
  - ③ ストレスが消化管の吸収能に及ぼす影響
  - ④ ストレスとリラックスが消化管運動に及ぼす影響
- (4) 結果のまとめ
- (5) 閉会式（実験動物慰霊碑前）
  - ① 実験動物追悼式
  - ② 閉会の言葉



生きた動物による実験



動物慰霊碑前で

#### 5) 参加者の反応（自由記載）

- ・貴重な体験ができたことに感謝します。ありがとうございました。
- ・貴重な体験をさせて頂くとともに、ストレスが及ぼす生体反応について、自分たちの手と目で学ぶことができました。
- ・動物実験によりたくさんの動物が犠牲になっているおかげで、医療技術が発展し、私たち人間が快適に生活できているのだということを改めて強く感じました。

#### 4. 評価と課題

今年度のえひめ高校生サイエンスチャレンジ（生物コース）は、前年度と同じ「ストレスに適応する生体の機能」というテーマではあるが、消化器系の生理実験に絞ったことで、余裕をもって各実験を行うことが出来た。また、各班に1名ずつ配置されたTAによって、はじめて生きた動物を使用した実験を行う高校生に対して行き届いた実験補助が行われた。

今年度をもって、科学技術振興機構のSPP事業廃止に伴い高校生サイエンスチャレンジは終了するが、県内高等学校生徒、理科教員からの強い要望があることから、本学独自でこのような事業ができないか検討すべきであろう。

## 5. 高校出張講座／メディカルトーク

平成26年度 ブック&メディカルトーク

第一回：愛媛県立宇和高等学校

第二回：愛媛県立松山中央高等学校

### 1. 概要

愛媛県立図書館との共催により、愛媛県内の高校生を対象に県立図書館職員よりいのちに関する図書の紹介と本学教員のメディカルトークをとおして、高校生に生と死、命、医療などを考える機会とする。

### 2. 実施主体・連携協力機関

本学地域交流センターと愛媛県立図書館の共催

### 3. プロジェクトメンバー

大崎准教授、松井講師、中越講師

### 4. 事業内容

第一回：愛媛県立宇和高等学校 講師：大崎博之准教授

- 1) 日時 平成26年8月28日(木) 13時40分～15時30分
- 2) 場所 愛媛県立宇和高等学校 小体育館
- 3) 参加者数 1年生87名、3年生11名、教職員5名 合計103名

第二回：愛媛県立松山中央高等学校 講師：松井美由紀講師

- 1) 日時 平成26年11月6日(木) 14時40分～16時30分
- 2) 場所 愛媛県立松山中央高等学校 会議室
- 3) 参加者数 2年生医療・看護コース35名と教職員4名、見学者4名 計43名
- 4) 実施内容

【第1回 ブック&メディカルトーク 愛媛県立宇和高等学校】(大崎博之准教授)



○ブックトーク (愛媛県立図書館 子ども読書係長 田中ひとみ)

「生と死をみつめて～どう選択しますか?～」というテーマで、5冊の本を紹介した。死期を予感し治療しないことを選択した女子高生、息子の臓器を他の子どもに移植することを選択した父親、医師になることを選択した人など、「選択」を一つのキーワードにシナリオを構成した。

休憩時間に、何人かの生徒にどの本が心に残ったのかを聞いたが、女子生徒は『ミアの選択』『あつこと僕らが生きた夏』、男子生徒は『医者になりたい君へ』が多く挙がっていた。

先生にお聞きすると、1年生は読書量が多く、本好きの生徒が多いということだった。非常に蒸し暑い体育館であったが、一生懸命にブックトークを聞いているのが印象的であった。休憩時間には、何人もの生徒が本を手にとってみている。

○メディカルトーク（愛媛県立医療技術大学 大崎博之 准教授）

普段の健康診断や、病院を受診した際に行われる尿検査や血液検査などの臨床検査は、結果の数値は手にするが、どのような人がどのように検査をしているのかということは、思いも及ばない。大崎先生から、ご専門の立場で検査の方法や内容についてお話していただいた。

生徒たちは、臨床検査技師を含め、医療関係の仕事に興味を持つことができたのではないかと思う。また、メディカルトークには、3年生の医療系志望の生徒も参加していた。進路を考える上でよい情報が得られたと思う。

【第2回ブック&メディカルトーク・愛媛県立松山中央高等学校】（松井美由紀講師）

○ブックトーク（愛媛県立図書館 読書振興グループ 東智子）

ブックトークは「医療とは、看護とは何か」をテーマに、『命をささえる』と題して6冊の本を紹介した。教室が会場だったので、いつもより生徒と距離が近く緊張したが、みんな熱心に聞いてくれた。

○メディカルトーク（愛媛県立医療技術大学 松井美由紀 講師）

メディカル・トークは、現場で20年働き、看護師長も経験した松井さんが、看護協会主催の体験記コンクールの優秀作品の中から自分も関係する話を紹介したり、自分が現役看護師だった時の患者との体験談などを話した。看護師の仕事はつらく苦しいことも多いが、医師よりも患者にとっては身近な存在で、患者に寄り添い、患者を支える、とてもやりがいのある仕事だ。みんなにも頑張ってもらいたいとエールを送った。松井講師の話に涙ぐんでいる生徒も何人かいた。質疑応答では、看護師をめざす生徒から、責任の重さをどうやって受け止めればいいのか、血を見ることには慣れるのか、などたくさんの質問を受けていた。



## 5. 評価と課題

医療の専門家との連携によるブックトークは、愛媛県立図書館の事業としても有意義なものだと評価されている。県立図書館のブックトークと本学教員にみるメディカルトークは、将来の進路を決める高校生にとって有意義で教育効果が高いものとなっている。次年度も県立図書館との共催で開催される予定である。

## 6. おもしろ理科教室（学生祭）

おもしろ理科実験教室 2014

### 1. 概要

地域貢献の一環として、医技大祭に本学を訪れた子どもを対象に、実験を通して理科のおもしろさを発見し、自然科学への興味を喚起する理科実験を実施した。学生ボランティアを募集し協力を依頼した。

### 2. 実施主体

主催：本学地域交流センター

協力：学生ボランティア 6 名（一部 3 名，二部 3 名），医技大祭実行委員会

### 3. 事業内容

- 1) 日 時：第一部 平成 26 年 10 月 25 日（土）13：00～15：00  
第二部 10 月 26 日（日）13：00～15：00
- 2) 場 所：本学 北棟 359 実験室
- 3) 対 象：幼児・児童と保護者等

### 4. 第一部：「シャボン玉液をつくろう」

- 1) 日時：平成 26 年 10 月 25 日（土）13：00～15：00
- 2) 場所：本学 北棟 359 実験室
- 3) 担当：加藤徳雄講師、学生ボランティア 3 名（臨床検査学科 1 年）
- 4) 参加者数：幼児・児童と保護者 約 40 組
- 5) 内容：シャボン玉液原料の 3～5 種の液をはかり取り、混合して子どもが自分でシャボン玉液をつくった。「ジャンボシャボン玉液」と「割れにくいシャボン玉液」の 2 種類を用意して、さらに大きなシャボン玉液を作るために、ストローの加工やアルミ線で輪っか作りを行った。  
実験により作成した作品はお土産として持ち帰ってもらった。

### 5. 第二部：「パラシュート工作」

- 1) 日時：平成 26 年 10 月 26 日（日）13：00～15：00
- 2) 場所：本学 北棟 359 実験室
- 3) 担当：佐川輝高助教，学生ボランティア 3 名（臨床検査学科 1 年）
- 4) 参加者数：幼児・児童と保護者 16 組
- 5) 内容：薄いビニールシートと細い紐で、穴の位置等種類の異なる落下傘を作製した。これを実際に落下させて、穴の位置や形などによる飛び方の違いを実験した。  
作製した落下傘はお土産として持ち帰ってもらった。

6. 評価と課題

- 1) 参加した子どもたちは保護者と一緒に楽しそうに作っていた。小さい子はジャンボシャボン玉がうまく作れず、何回も挑戦してやっと上手にでき、喜んで笑顔一杯になっていた。「ジャンボシャボン玉液」のお土産ももらって、親子の楽しい1日になったのではと思われる。ただ、シャボン玉液で、廊下がぬれてしまい、滑りやすくなっているため、滑らない工夫をしておく必要がある。
- 2) パラシュートは廊下では飛ばせないため、外に出て走りながら投げ上げていたが、うまく開かなかった。南北棟をつなぐ2階の廊下から、下に投げるときれいに開いていた。きれいに広げることができる場所への案内を上手にすることが今後の課題と思われる。



359 実験室に準備されているシャボン玉をつくる材料と説明用パネル



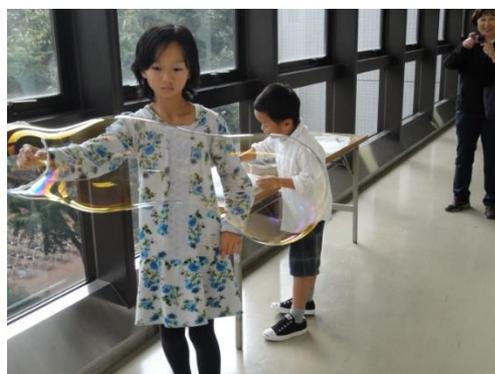
なかなかうまくできないな



ほら、みて！ うまくできたよ！



なかなかできないな？ どうしてだろう？



ジャンボシャボン玉ができたよ！！



パラシュート工作の材料



熱心につくっています



うまく広がるのかな？



高いところから、見事に広りました！



みんな並んで作るぞ！



低くても勢いよくあげれば広がるよ！

## 7. 夏休みキッズひろば

### 夏休みキッズ広場

第一部：ナース体験「手洗いピカピカ・聴診器でもしもし・おむつをかえよう」

第二部：おもしろ理科教室「シャボン玉をつくろう」

#### 1. 概要

NPO 法人とベ支援団体ぽっかぽかとの共催により、砥部町内の幼児・児童とその保護者を対象に親子の医療・看護に関する体験活動を実施し、関心を持てる機会とする。

#### 2. 実施主体

主催：NPO 法人とベ支援団体ぽっかぽか

地域交流センター員（相原ひろみ助教、中越利佳講師）、加藤徳雄講師

学生ボランティア 5 人

#### 3. 事業内容

1) 日時：平成 26 年 8 月 7 日（木）10：00～12：00

2) 場所：本学別館 2 階 地域交流センター多目的室、研修室 2

3) 参加者数：幼児・児童 18 名、保護者 11 名 計 29 名

4) 実施内容：

【第一部ナース体験】「手洗いピカピカ・聴診器でもしもし・おむつをかえよう」

綺麗に手を洗えているか「手洗いチェッカー」で手洗いを体験したあと、赤ちゃんモデルのおむつ交換を行った。そのあと、聴診器でモデル人形の心音や親子でお互いの体の音を聞き、参加者の親子・兄弟・友達同士で心音を聴診した。

5) 参加者の反応

【第一部ナース体験】では、手洗いチェッカーで汚れに模したクリームを興味深くみて、流水でクリームが落ちたことを確認した。親子で一緒に交換を行った。聴診器でもしもしは、親子などお互いの心音を興味深く聞く様子がみられた。

【第二部おもしろ理科教室】では、大きなシャボン玉が出来るような輪っかを作ったあと、シャボン玉遊びを行った。作ったものはお土産にお持ち帰ってもらった。

#### 4. 評価と課題

別館の地域交流センター多目的室はカーペットのため、小さい子どもさんのイベントでも床に物品を置く等の演習が実施しやすかった。おむつ交換は、2～3 歳児には少し難しい様子のため親子で協力して実施してもらった。参加者の性別に関わらず、ベビー人形には興味を持ってもらえ、抱っこするなど終始楽しんでもらった。シャボン玉作りは、2～3 歳児には少し難しいため、あらかじめ用意したシャボン玉液で遊んでももらった。廊下がすべりやすくなる状況だったが、学生ボランティアが廊下を清拭し、転倒事故防止に努めた。



## 8. 10周年記念ぽっかぽかまつり

### 10周年記念ぽっかぽかまつり

#### 1. 趣旨

砥部町子育て支援団体 NPO 法人ぽっかぽかとの協力事業により、砥部町内の幼児・児童とその保護者を対象にした医療・看護・生活全般にかかわる活動を行い、大学への関心を持っていただく機会とする。

#### 2. 実施主体

砥部子育て支援団体 NPO 法人ぽっかぽか  
砥部町内の子育てに関連する関係機関  
愛媛県立医療技術大学

#### 3. 大学からの協力参加者

窪田 静  
豊田 ゆかり

#### 4. 実施内容

- 1) 日時：平成 26 年 5 月 11 日（日） 10：00～15：00
- 2) 場所：砥部町中央公民館・体育館
- 3) 対象者・参加者：砥部町金港の家族（乳幼児から高齢者まで）約 600 人
- 4) 実施内容：福祉用具であそぼう  
生活としつけ（お箸の使い方）

#### 5. 結果

全体で約 600 名を超える参加者であり、大学のブースは体育館で行った。親子での参加が多く、福祉用具ではきょうだいや友達と楽しくあそぶ様子があり、また、正しいおはしの持ち方では、豆をつかむゲームや動くおもちゃをエジソンのおはしでつかみゲーム感覚で競争していた。母親や祖父母も参加し楽しむ姿があった。

ブースには大学ののぼりを立てて実施した。参加者の中には大学の存在を知っている保護者もいたが、短期大学から大学になったことを知らない地域の人々もおおり、今後の広報活動の必要性を感じた。



## 9. とべ子育てフェスタ 2014 看護師・臨床検査技師“お仕事体験”

### とべ子育てフェスタ 2014 看護師・臨床検査技師“お仕事体験”

#### 1. 概要

砥部町の子育て支援に関わる関係者と子ども・親など町民一人ひとり、および団体・企業が協力し、地域社会全体で、子育てを応援することを目的とする。

“とベキッズお仕事体験”では、親子が興味のある職業体験を通して、コミュニケーションを図り、将来への夢を育むきっかけづくりとする。

#### 2. 実施主体

主催：NPO 法人とべ子育て支援団体ぽっかぽか

共催：砥部町・砥部町教育委員会・砥部町議会

実行委員会：1) 4月21日(月)：関係者紹介、趣旨説明、実施計画、広報について

中央公民館4階にて 14:30～15:30

2) 6月16日(月)：応募状況、当日スケジュール、役割分担

高尾田あったかコミュニティカフェにて 14:00～15:00

#### 3. 事業内容

1) 日時：平成26年6月29日(日) 13:00～16:30

2) 場所：砥部町保健センター

3) 参加者数：臨床検査技師ブース：21人\*

看護師ブース：23人\*

\* いずれも年齢層は、3歳～12歳

4) 実施者および実施内容

臨床検査技師ブース(洋室)

講師：野島一雄准教授、大崎博之准教授、坂東史郎講師、

ボランティア学生：臨床検査学科3年生5名

看護師ブース(和室)

講師：藤原紀世子助教

ボランティア学生：看護学科3年生3名、4年生2名

5) 実施内容

(1) 全体：1回の体験時間は30分とし、休憩をはさみ3回実施した。子ども6～8人が保護者とともに希望するブースを訪問し、そこで仕事を体験する流れであった。

(2) 臨床検査技師ブース：子どもたちが簡易白衣を着用して、講師による仕事紹介と血液型や顕微鏡観察、エコー検査の簡単な説明を聞いた後2手に分かれて、血液型判定カードに試薬と血液を混ぜるお手伝いをしながら、凝集していく様子を観察したり、エコー検査の機械でひよこの金型で抜き取ったこんにやくを寒天内に埋め込んだものを観察したり、人

のお腹の中を観察したりした。残った時間で赤血球・白血球・白血病細胞・マラリア原虫などを 1000 倍の顕微鏡で観察した。

- (3) 看護師ブース：子どもたちがユニフォーム着用後、手洗いをして『手洗いチェッカー』を用いて、洗い残しがないかをチェック。その後、再度手洗いをしてどの部分に洗い残しが多いかを学習し、あわせて包帯の巻き方を体験した。

#### 6) 参加者の反応

子どもたちはユニフォームを着用し、母親と写真撮影をしていた。また、手洗いの方法や包帯の巻き方を真剣に聞き、楽しそうに実践していた。手洗いはただ洗うだけでなく手洗いチェッカーを使うことで洗い残しの証拠が目に見え、それが子どもたちにとっても楽しい体験となっていたようである。去年来てくれた子どもがボランティアとして参加した学生を覚えていて、楽しそうに会話したり、子どもたち同士の交流があったりと和やかに過ごすことができていた。今年から加わった超音波のコーナーでは、子どもたちの驚きと感嘆の言葉が聞かれ、興味をそそられていることが伺えた。顕微鏡観察では、ある程度理解しながら観察している子ども（高学年生）から全く興味を示さない子ども（幼稚園児）まで、その反応は様々であったが、保護者のほうが興味を示すこともあった。

#### 4. 評価と課題（次年度へ向けての計画を含む）

昨年度に比べると今年度はお仕事体験の種類も場所も広範囲なため、他ブースが時間内に終わらず、2 時間目、3 時間目に全員が集まらず、開始に手間取った。参加人数と時間に関しては特に問題なく、スムーズに進行できる状態であった。

主催者側から、母親より助産のブースはないのかという質問が多かったとのことで、来年は助産のブースで、助産と看護を交互に実施してほしいとの要望を受けた。

ユニフォームは子どもたちにとってスムーズに感情移入できる重要なアイテムであり、子供用ナース衣や紙製の子ども用白衣を引き続き準備することが望ましいと考えられる。

大学の PR 面においては、医技大の旗は大きすぎて、館内に設置するには無理があり、入館時に見られるように入り口への設置が望ましいと思われた。また、持参したオープンキャンパスのポスターを熱心に読む保護者の姿もあり、学生祭の案内掲示や本学の PR 用ポスターも準備する必要がある。

#### 1) 臨床検査技師ブース

部屋は十分に広く、血液型コーナー、顕微鏡コーナー、超音波コーナー（今年から実施）の 3 つに分けることができた。まず、臨床検査技師の仕事を簡単に説明してした後、血液型コーナーと超音波コーナーの 2 手に分けて体験してもらった。半分の時間でお互いに交代し、余った時間を利用して保護者と一緒に 4 台の顕微鏡で赤血球や白血球、マラリア原虫、白血病細胞などを観察してもらったが、低学年や幼稚園児には理解しにくいようであった。顕微鏡で観察する横に、観察すべき細胞の顕微鏡写真を設置することで、何を見るのかが一目瞭然の状態を観察することができた。この資料はラミネートフィルムで保護しているため毎年使用が可能となっている。また、顕微鏡間には十分な間隔があったため、子供た

ちがぶつかることもなく、同時に保護者の方も一緒に観察することができた。しかし、低学年の子供たちは机の上に設置した顕微鏡には届かないため、椅子の上に立って見てもらったが、足場が不安定で保護者の補助が必要不可欠であった。顕微鏡観察時に簡単な説明ができる講師を置くことも重要な課題である。

学生 4 名が対応してくれた血液型の机では、試薬と血液を混ぜた後血液型判定カードを自分たちで揺すりながら、血液が凝集していく様子に感動していました。一方、今年から実施した超音波コーナーでは、ひよこの金型で抜き取ったこんにやくを寒天内に埋め込んだものに超音波を当てたりボランティア学生のお腹に超音波を当てて、ひよこの形やお腹の中がテレビ画面に映し出されると歓声が上がった。そのあと画面を見ながら説明をすることで、お腹の中がどのようなになっているのかの理解が深まったと思われる。

臨床検査技師の仕事の内容や当日体験できることへの説明については、小学生高学年ではある程度理解しているようであったが、低学年や幼稚園児では理解できない子も多く、もう少しかみ砕いた内容にする必要があると思われる。ただ、保護者の方が子供たちに易しく説明していたので、ある程度は理解できていたであろうと思われる。

## 2) 看護ブース

準備段階として畳の部屋を借りることができたので、子どもたちも長時間座って過ごすことができ、家族もゆったり座って見守ることができていた。机も低めなので、手洗いチェッカーの中の手を上から十分ゆとりを持ってみることもできていた。手洗いチェッカーはやはり部屋を暗くした方が見やすいので、その点でも和室は看護のみのブースであったことから自由に電気を消すことができ、非常に効果的であった。

大学生とはあらかじめ大学で打ち合わせをし、それぞれ子ども 1~2 人を担当してもらい、お互いの自己紹介に始まり、お迎え、白衣の着脱手伝い、手洗い場への誘導、手洗い指導、手洗いチェック、包帯巻き、お見送りを依頼した。大学生は非常に丁寧に子どもたちの体験を支援し、子どもたちも大学生に信頼を寄せており、大学での話など熱心に耳を傾けていた。今後も大学生の参加は必要であると考えます。

手洗いシートをお土産に配布した。子どもたちは手洗い実施中も熱心に見ており、喜んで持って帰っていた。子どもたちは包帯を巻いてもらうことも喜び、家族に見せたり、写真を撮ったりして楽しんでいました。

参考：本学以外の“お仕事体験”ブース

大工、消防士、銀行員、理美容師、飼育員、介護士、歯科衛生士  
製菓衛生師、教師、保育士、陶芸家、自衛隊、コンビニ、木育

5. 写真によるお仕事体験の様子

臨床検査技師ブース



<講師のお話>  
臨床検査技師の仕事について、熱心に聞いている子どもたちとその保護者



<血液型コーナー>  
血液が凝集する様子を興味深くのぞき込む子どもたち



<血液型コーナー>  
血液が凝集する様子を興味深くのぞき込む子どもたち



<顕微鏡観察コーナー>  
椅子の上に乗って、積極的に顕微鏡を見ている子どもたち



<超音波コーナー>  
ボランティアのお腹に超音波を当てて、お腹の中を写している状態



<超音波コーナー>  
お腹の中の説明を受ける子どもたち

看護師ブース



<正しい手洗いの方法を説明>  
説明に合わせて実演  
この後一緒にやってみましょう



<みんなで手洗い>  
大学生の支援を受けながら、丁寧に洗っていますね



<チェッカー>  
どうかな？ きれいに洗えているかな？



<包帯巻き>  
包帯を巻いてもらって、みんな嬉しそう



<包帯巻き>  
じゃあ、今度はお姉さんに巻いてあげますね  
☆



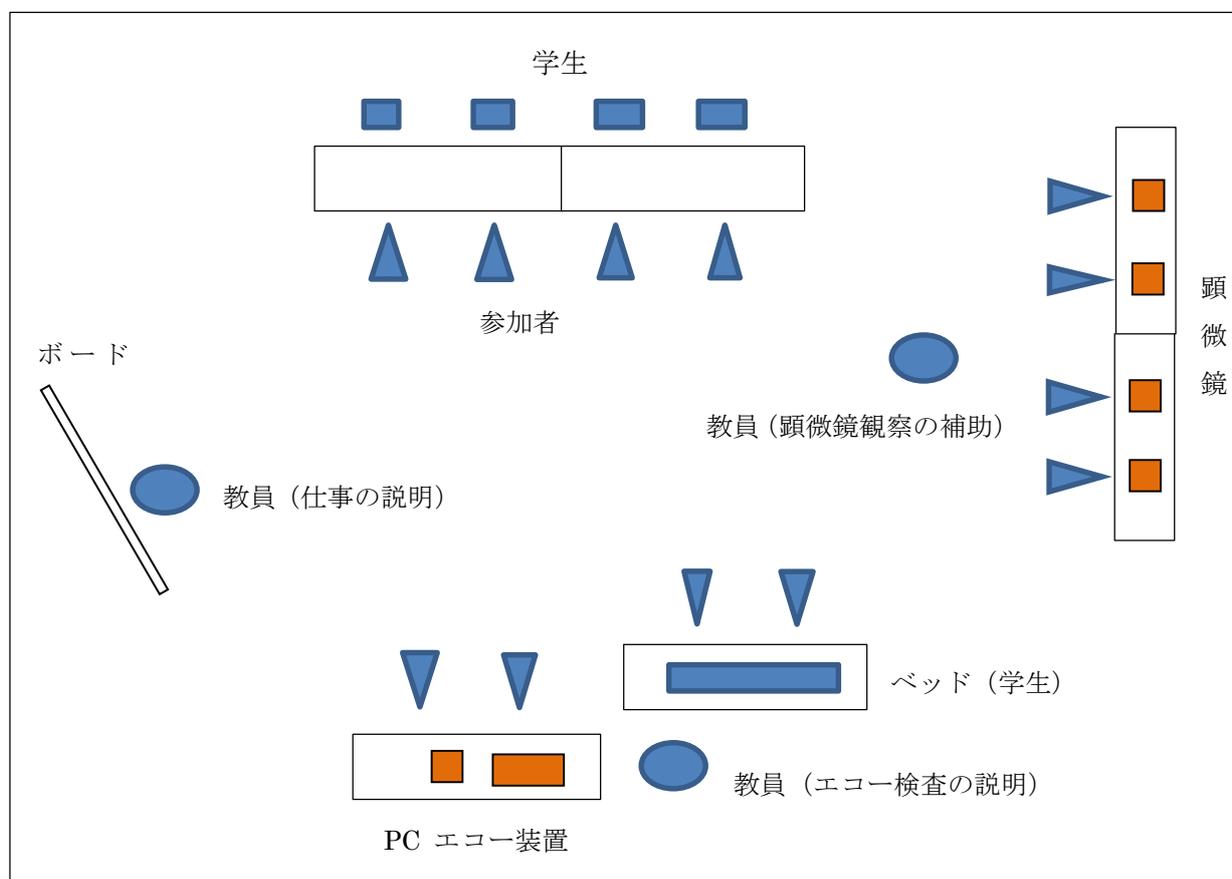
<包帯巻き>  
お母さんにも巻いてあげる。私もお母さんも  
なんだか緊張してるね☆

## 6. 資料（教材内容、パンフレット、関係資料等）

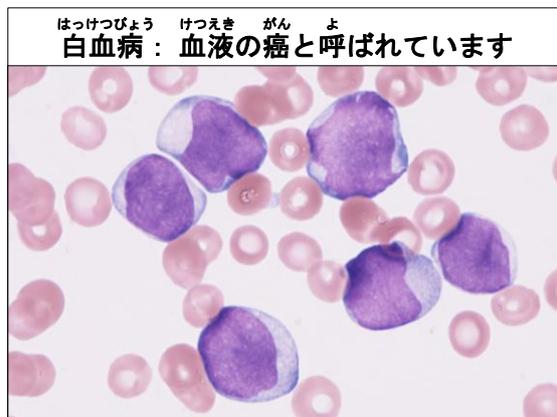
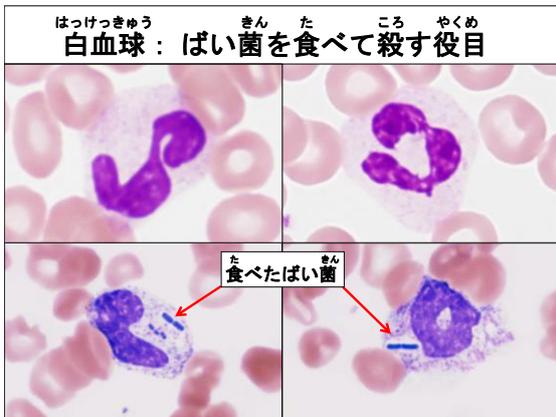
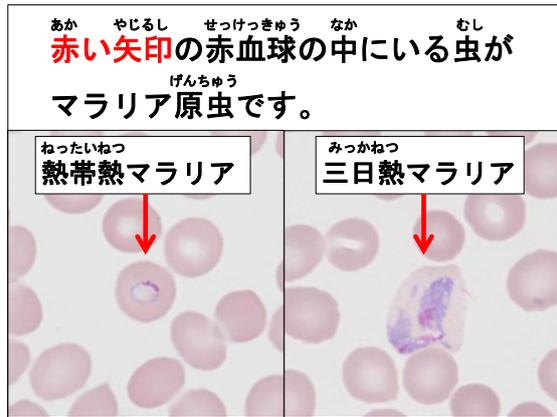
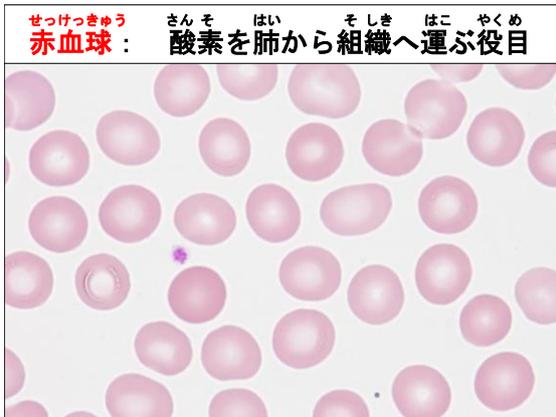
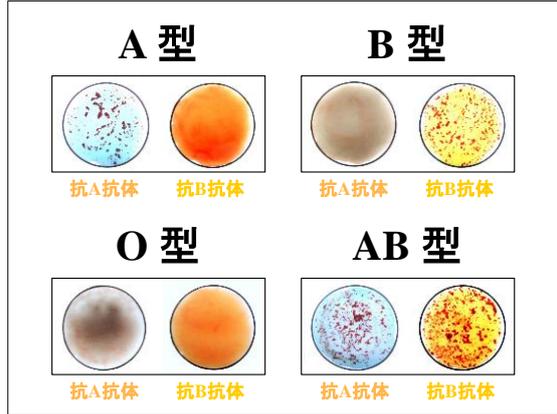
## とべ子育てフェスタ 2014 臨床検査技師ブース

- 1) キャッチコピー：血は何でできているのかな？ 顕微鏡で大きくして見てみよう！
- (1) 顕微鏡：4台
  - (2) 標本：健常人赤血球、三日熱マラリア原虫、白血球（好中球）、急性白血病細胞
  - (3) 資料：写真4枚（各々の顕微鏡に関連した細胞の写真を横にならべた）
- 2) キャッチコピー：血液型（けつえきがた）はどうやって調べるの？
- (1) 試薬：抗A抗体、抗B抗体
  - (2) 血液：A型血液、B型血液
  - (3) 判定：血液型判定カードの上で試薬と血液を爪楊枝で混合する
  - (4) 資料：試薬置き、測定手順、判定結果
- 3) キャッチコピー：お腹の中を覗いてみよう。
- (1) 機械：ノートPC ポータブルエコー
  - (2) 対象：ひよこの金型で抜き取ったこんにゃくを寒天内に埋め込んだもの、健常男性の腹部

配置図



りんしょうけん さ ぜ し し こ  
**臨床検査技師のおもな仕事**  
 血液型を調べる  
 血を取って病気の原因を調べる  
 食中毒の細菌を調べる おしっこを調べる  
 心電図で心臓を調べる  
 超音波で心臓やお腹を調べる  
 脳波を取って頭の中を調べる  
 癌細胞を見つけ出す  
 心電図で心臓を調べる  
 超音波で心臓やお腹を調べる  
 脳波を取って頭の中を調べる  
 癌細胞を見つけ出す



## とべ子育てフェスタ 2014 看護師ブース

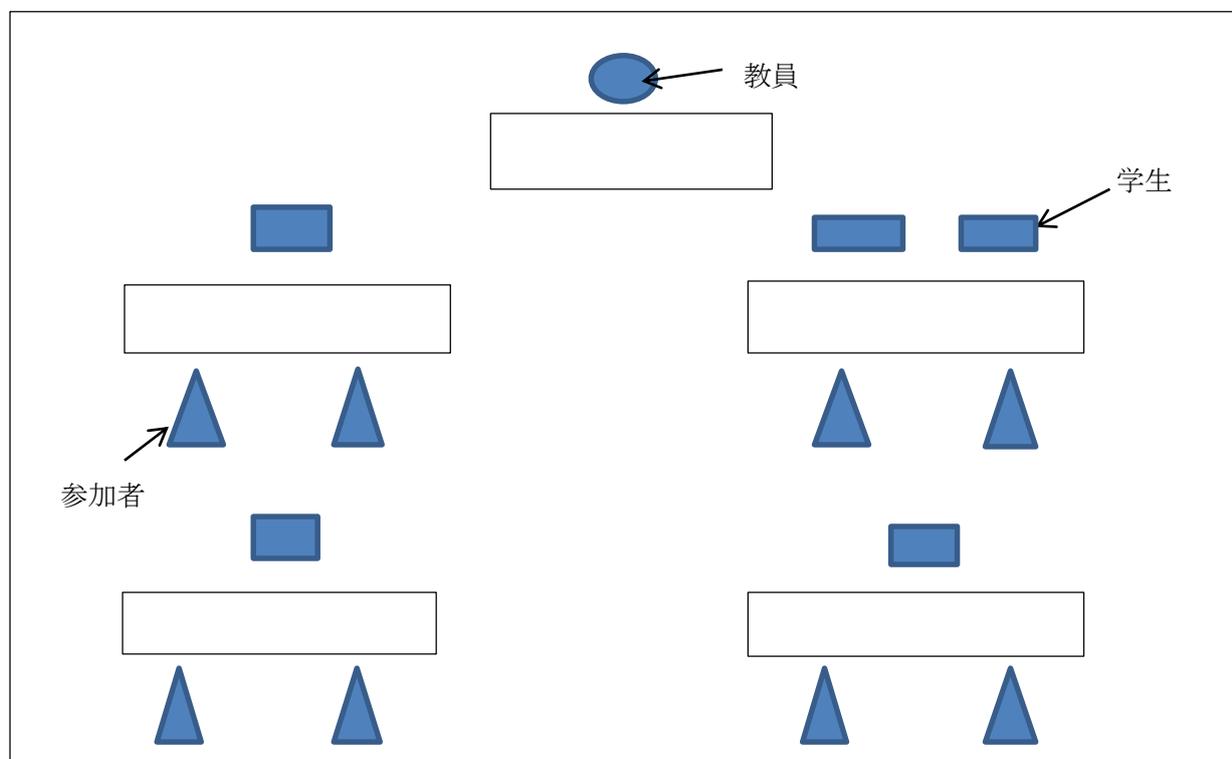
## 1) 必要物品

手洗いチェッカー4台、ローション4台、シャボネット4台、ペーパータオル、ゴミ袋  
手洗いシート40枚、包帯、紙テープ、はさみ5つ、上白衣8着、ポスター、セロテープ

## 2) 準備

- (1) 机を5台並べる。
- (2) 机1つにつき、手洗いチェッカー、ローションを中央に1つずつ配置する。
- (3) 机1つにつき、手洗いシートを2枚ずつ配置する。手洗いシートは持ち帰りなので、2時間目前、3時間目前にも2枚ずつ準備する。
- (4) 机1つにつき、包帯、紙テープ、はさみを一つずつ配置する。足りなくなったときは、教員用の机に取りに行く。
- (5) 廊下の洗面台に行き、シャボネット、ペーパータオルを手洗い場2つにつき1つずつ配置する。手洗いシートを2、3枚鏡に貼る。ゴミ袋を近くに固定する。
- (6) 壁にポスターを貼る。
- (7) クーラーの温度を確認する。
- (8) 白衣に着替える。

配置図



# さあ、みんなであらおう!!

- ① **水で手をぬらして**  

- ② **せっけんを手にとって**  

- ③ **あわ立てブクブク**  

- ④ **手のこうモミモミ**  

- ⑤ **ゆびのあいだモミモミ**  

- ⑥ **おやゆびクルクル**  

- ⑦ **手のひら・ゆびのさきゴシゴシ**  

- ⑧ **手くびクルクル**  

- ⑨ **しっかりながして**  

- ⑩ **きれいにふいてピッカピッカ**  


**SARAYA**  
<http://www.tearai.jp/>

© SARAYA CO., LTD.

## 10. 「ラ・ファミリエ子どもの夢プロジェクト 2014 ～子どものいのちと体を守るお仕事体験～」 “病院のお仕事体験”

「ラ・ファミリエ子どもの夢プロジェクト 2014  
～子どものいのちと体を守るお仕事体験～」 “病院のお仕事体験”

### 1. 概要

難病や障害をもつ子どもと家族を支援する団体である NPO 法人ラ・ファミリエが、ファミリーハウスあいなどの啓蒙・広報活動の一環として、子ども達が将来社会の一員として育つことを願い、子ども達の将来の夢や仕事につながる医療関係情報を提供し、子ども達が主体となって参加し夢や仕事を考える機会となる事業を行った。また、健康教育や病気や障害についての相談の場となるような機会も提供した。この事業は平成 26 年度「三浦保」愛基金社会福祉分野公募事業しても企画された。

愛媛県立医療技術大学は、お仕事体験ブース（病院のお仕事体験）の内、看護師部門、助産師部門、臨床検査技師部門の 3 部門を担当した。

### 2. 実施主体

主 催：特定非営利活動法人ラ・ファミリエ  
後 援：愛媛県、松山市、愛媛新聞社、NHK 松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ

### 3. 事業内容

日 時：2014 年 8 月 24 日（日） 10：00～17：00

場 所：エミフル MASAKI 1 階 グリーンコート

内 容：

#### 1) お仕事体験ブース（病院のお仕事体験；②～④を愛媛県立医療技術大学が担当）

- (1) 医師：診察・超音波検査
- (2) 看護師：血圧測定、聴診体験、包帯を巻く、など
- (3) 助産師：赤ちゃん抱っこ おむつ交換 寝衣交換、など
- (4) 臨床検査技師：顕微鏡による血液の観察、血液型の判定、など
- (5) 救急救命士：救急車・救命士の仕事 AED の利用方法
- (6) 栄養士：
- (7) 子育て相談・療育相談：e-母子手帳紹介 など

#### 2) その他

- ・愛媛県小児科医会の協力による相談会（育児・医療・小児慢性疾患など）
- ・予防接種、献血促進、アレルギー対策等についての啓発事業
- ・人形劇
- ・病児等対象の絵画教室での作品展示

### (3) 実施協力者

教員（看護学科）：枝川千鶴子准教授、井上明子助教、相原ひろみ助教、  
梶原理恵助教

（臨床検査学科）：坂東史郎講師

ボランティア：学生 10 名（看護師、助産師ブース 9 名、臨床検査技師ブース 1 名）

## 4. 実施内容

看護師・助産師ブースでは、ピンクやブルー・ホワイトの白衣の中からお気に入りのものを試着し、看護師さん・助産師さん体験を行った。

- 1) 看護師ブース：ボランティアの学生や一緒に来られたご家族の方を対象に、血圧測定・聴診体験や包帯を巻く体験を行った。血圧のマンシュートを巻いてシュポシュポと送気球を押すのは難しかったようですが、トクトクと音が聞こえた瞬間にハッと笑顔が見られていた。聴診体験では、呼吸の音や心臓の音を聞き比べた。包帯は腕にぐるぐる巻き上げ固定をする体験をした。
- 2) 助産師ブース：本物の赤ちゃんそっくりな人形を用いて抱っこやおむつ交換、寝衣交換を実施した。優しく声をかけたり、ずっしりと重い人形を抱いて、お母さんやお父さんの体験にもなったようであった。子どもが生まれた時の様子をお聞きし家族が子どもに語りかけることで、親子で出産から今までの振り返りもされていた。赤ちゃんのお世話を通して助産師の生命の誕生や家族に関わるお仕事の体験も実施した。
- 3) 臨床検査技師ブース：顕微鏡で、赤血球中に寄生しているマラリア原虫を観察してもらった。また、血液型の検査では、抗血清による赤血球の凝集を観察した。そのほか、ハマダラカによるマラリア原虫の感染や赤血球中でのマラリア原虫の成育、赤道直下の感染地域（アフリカや東南アジアなど）、世界中でのマラリア感染者と死亡人数などの資料を展示し見てもらった。

## 5. 参加者数

看護師ブース：194 名、助産師ブース：153 名、臨床検査技師ブース：162 名、のべ 509 名の参加者があり好評であった。

## 6. 評価と課題

### 1) 看護師ブース

体験する子どもたちが多かったので、対応する看護師を増やし、テーブルを途中で追加して行った。今回、看護師も多くいたので対応できたが、体験を待つ子どもが一時あふれる様子もあり並び方を検討する必要があると感じた。

当日の朝、松山赤十字病院や県立中央病院から多くの看護師のボランティアがいることを知った。ボランティアの全体数がわからなかったので、大学のボランティアに対する休憩等のシフトを考えていたが、急遽変更することになった。全体がわからないので、たとえば午前は大学ボランティア、午後は他のボランティアとするほうが動

き易いと考えられる。

## 2) 助産師ブース

看護師ボランティアが多かったので、助産の担当者を増やして対応した。その他、看護師ブースと同様である。

## 3) 臨床検査技師ブース

今年度は準備中から多くの子どもたちや保護者が押しかけて、顕微鏡を覗き込んだり、血液型はまだかと急かされた。その後も引き続いて多数の方が来られ、二人での対応では昼食時間もあまり取れない状況であった。このような状態は17時を過ぎても続き、片付けをしているときにも希望者が来られて、なかなか終了できないほど盛況であった。

今年度で3回目となり、少しずつこの事業が認知されてきていると感じとることができてきた。また、子どもたちや保護者の方々が熱心に取り組んでいる様子を見ると、時間がたつのを忘れてしまいそうで、とても充実した1日であった。今後、益々盛況になっていくものと考えられ、やり甲斐のある事業の一つであると認識した。

昨年度は参加人数もやや少なく、また他病院からの協力者もあって時間的余裕がありました。そのため、昨年度に合わせて準備を進めてきたが、他病院からの協力者がいないことが直前になって判明したため、試薬の準備やボランティアの学生への声かけが遅れ、すべてにおいて準備不足となった。この経験を踏まえ、今後は他病院からの協力者がなくても、ラ・ファミリエと密に連携をとりながら、十分なボランティアの人数を確保する必要であると感じた。また、マラリアなどの資料も、子どもたちが血液型判定などを体験している間に、保護者が見られるように適切な展示場所を確保することが必要であると考えられた。



看護師ブースの看板。



多くの子どもたちで一杯です。



聴診器で身体の中の音を聞こうかな



血圧測定って難しいな



助産師ブースだよ。



赤ちゃんの寝衣交換で学生も奮闘中



顕微鏡でマラリア原虫を観察。



血液型の判定を観ます。



学生ボランティアも人気者です。



医療技術大学の宣伝もバッチリ!

## 1 1) リレーフォーライフ 2014

「リレー・フォー・ライフ (RFL)」

### 1. 概要

がん患者・家族、支援者が集い 24 時間をともに過ごすことにより「がん」に関する正しい知識と「がん患者・家族」への理解を深め、地域社会全体でがんについて考える契機になることを目的とするリレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014 えひめのチャリティ活動に、学生を主体とした全学的な組織で参加し、市民や関係者と時間を共有する。

### 2. 実施主体

主催：リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014 えひめ実行委員会

### 3. 組織

本部付役員：松井美由紀講師

地域交流センター員：相原ひろみ助教

学生で構成する RFL 実行委員会（代表：臨床検査学科 2 年 藤田優城）

### 4. 事業内容

1) 日時：平成 26 年 11 月 1 日（土）、2 日（日）12：00～12：00

2) 場所：城山公園 堀之内地区 ふれあい広場

3) 参加者数：がん患者、家族、支援者、一般の方 2,500 名

実施内容：

(1) リレーウォーク

(2) ルミナリエバック

(3) 日本対がん協会への寄付：広告協賛はせずに寄付する。

(4) 本部実行委員会参加（5～10 月毎月 1 回平日夜）

(5) 当日クイズラリー実施

(6) 学内結団式 平成 26 年 10 月（予定）

4) 結果評価の方法：参加者人数、写真撮影

### 5. 評価と課題

本事業は、平成 22 年から連続して 5 年目の開催となるがんについて考える機会となるイベントである。

本学の教職員チームのリレーウォークへの参加は 38 名（参加費 19,000 円、教職員からの RFL への募金 27,500 円）であった。学生の本部役員は 5 名、学生ボランティア 46 名、学生のリレーチームは 47 名であった。ルミナリエバックへの協力は、本学は 100 枚を担当し、学生が 86 枚・教員 16 枚の協力を行った（募金金額 20,000 円）。

参加者はがんサバイバーをはじめ県内の医療関係機関が多く参加し、雨天のなか開催された。途中 11 月 1 日 16 時に、雷注意報が発令され、イベントの中止が検討されたが、イベン

ト自体は続行されリレーの継続については各チームの判断に任せられた。本学の学生チームは、雨の回復を待ってリレーを続行し、教職員チームは夜間のリレーを中断して翌11月2日8時から再開した。

天候の状況次第で左右される屋外でのイベントのため、リレーの継続や非常時の連絡体制を確立することが必要である。



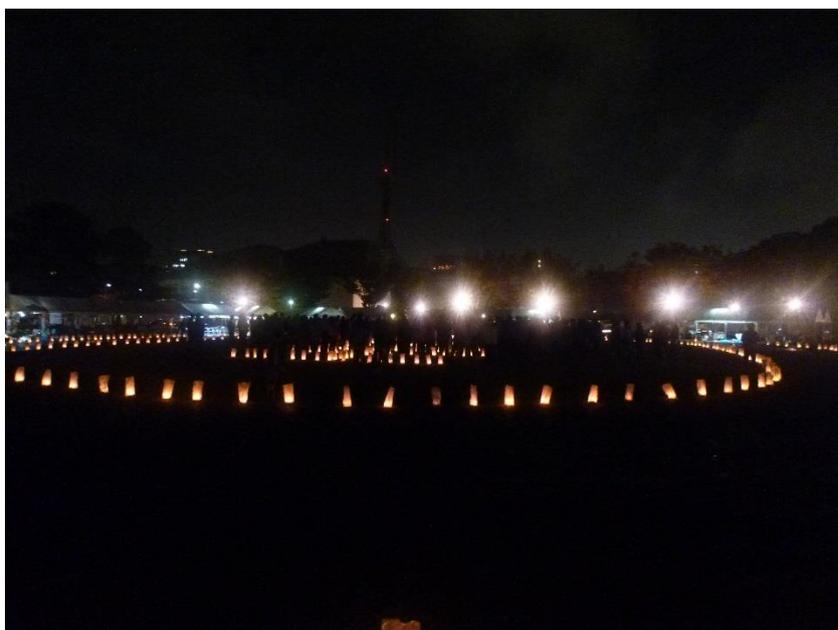
テントの設営です。休憩コーナーと水分補給コーナーを設営しました。



横断幕とフラッグとたすきを持ってリレーを続けます。



学生チームも頑張ります。



夜になって雨が上がったので、ルミナリエセレモニーが無事に行われました。



2 日目は、無事にクイズラリーが開催されました。



応援に駆け付けた塩崎厚生労働大臣と一緒に写真撮影を行いました。



間もなくリレーの完走時間です。



リレー後の記念写真です。

# Ⅲ 教員の社会貢献活動 報告

### Ⅲ 教員の社会貢献活動報告

#### 1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
宮内清子	企画・実施：愛媛県	<p>「愛媛県介護支援専門員地域リーダー養成研修」は、平成 18 年度から養成をスタートした“主任介護支援専門員”に、さらに地域包括ケアの力量を形成することを目的に平成 22 年度から新規にスタートさせた高齢者介護の地域リーダー（各市町推薦）育成のための研修であり、愛媛県長寿介護課の支援要請を受けて研修プログラムの作成及び内容の検討に参画・助言するとともに、基本的な講義、県内 7 ブロックでの演習支援、実施後の評価に協力している。また、年 2 回の研修会には、講義・助言者等を務めている。</p> <p>講義：①地域包括ケア体制の実現を目指すコミュニティネットワークづくりと地域リーダーの役割、②「地域別演習」報告への助言およびグループワークのまとめ・助言</p>	主任介護支援専門員研修を修了した地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員	
宮内清子	企画：愛媛県 事業実施機関：愛媛県社会福祉協議会	<p>平成 26 年度愛媛県介護支援専門員「実務研修」6 日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに講義・演習を一部担当。</p> <p>実務研修は、資格試験に合格した介護支援専門員に対する最も基本的な研修であり、資格取得者の動機付けと力量形成を目指して、指導者チームを組織化して毎年度評価を重ねながら、改善を図っており、平成 24 年度から設置した質保証を目的とする評価委員会を中心に、指導者間の指導の均質化を図るべく評価のポイントなどを資料化し、一定の成果を修めた。</p> <p>担当科目：ケアマネジメントの意義と役割、ケアマネジメントの展開過程、居宅サービス計画作成の講義・演習、チームアプローチ演習、介護予防ケアプランの考え方講義・演習</p>	介護支援専門員研修受講資格試験合格者	学部長

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
宮内清子	企画：愛媛県 事業実施機関：愛媛 県社会福祉協議会	平成 26 年度愛媛県介護支援専門員「基礎研 修」3 日間の研修プログラム作成及び内容の検 討に参画・助言するとともに講義・演習の一 部を担当。基礎研修は、実務に就いて 1 年未 満の実務者のスキルを定着させることを目的 としており、演習を中心にしてケアマネジメ ントの技術を確認しつつ指導するもので、毎 年度教育の評価を行い修正を加えながら展開 している。 担当科目：ケアマネジメントのプロセスとそ の基本的な考え方	介護支援専門員 就業後 1 年未 満の者	学部長
宮内清子	企画：愛媛県 事業実施機関：愛媛 県社会福祉協議会	平成 26 年度愛媛県介護支援専門員「専門研修 Ⅰ」3 日間の研修プログラム作成及び内容の検 討に参画・助言するとともに、講義・演習の 一部を担当。この研修は、就業後 6 か月以上 の実務経験者の専門性を向上させることを目 的としており、選択科目を導入し、個々人の ニーズにも対応している。毎年度評価を行 い、教育内容に修正を加えながら展開してい る。 担当科目：ケアマネジメントを担う介護支援 専門員の倫理	介護支援専門員 就業後 6 か月 以上の者	
宮内清子	企画：愛媛県 事業実施機関：愛媛 県社会福祉協議会	平成 26 年度愛媛県介護支援専門員「専門研修 Ⅱ」3 日間の研修プログラム作成及び内容の検 討に参画・助言するとともに、講義・演習の 一部を担当。専門Ⅱ研修は、就業後 3 年以上 の実務経験者の専門性を向上させることを目 的としており、介護保険利用者の事例検討を 中心に資質向上を図っている。毎年度評価を 行い、教育内容に修正を加えながら展開して いる。 担当科目：事例検討の理論と実際(演習を含 む)	介護支援専門員 就業後 3 年以 上の者	

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
宮内清子	企画：愛媛県 事業実施機関：愛媛 県社会福祉協議会	平成 26 年度「主任介護支援専門員養成研修」は、平成 18 年度の介護保険法改正により都道府県に義務付けられ継続実施している研修で、市町村地域包括支援センターなどにおいて地域の介護支援専門員のスーパーバイザーとして卓越したマネジメント力と地域ケアネットワーク構築の役割を期待して育成するもので、12 日間の研修プログラムを展開しており、一部の講義を担当している。 担当科目：主任介護支援専門員の役割と視点、事例研究及び事例検討の指導方法、地域ネットワークのつくり方（演習を含む）	介護支援専門員 実務経験 5 年以上で、市町村の推薦を受けた者の中から選考	学部長
宮内清子	愛媛県老人クラブ連 合会 平成 26 年度 「健康づくり大学 校」 企画運営委員 会	愛媛県老人クラブ連合会主催の 11 日間の研修会の運営副委員長として、東温市における「中予地区高齢者大学校」の企画・プログラム作成を支援し、一部講義を担当した。 担当科目：高齢者の健康づくり	中予地区各市町の老人クラブ役員及びリーダー	
宮内清子	企画・実施：愛媛県	平成 23 年度から制度化された特別養護老人ホーム等に勤務する介護職員等に対する「たんの吸引・経管栄養等の研修」をスタートさせるに当たり、長寿介護課・障害福祉課の研修委員会の構成員として企画運営に参画し、研修対象の選定、研修プログラムの作成・研修講師の選定などについて助言・支援を行うとともに、全体の調整、研修の評価等の役割を果たした。研修 4 年目を迎えて、研修プログラムも円滑に運ぶようになり、前年度よりも効率的に実施できた。	愛媛県内の特別養護老人ホームなどで勤務する介護福祉士、障がい者の在宅ケアに関わる介護福祉士等	
宮内清子	企画・実施：今治保健所	市町村合併や分散配置が進む市町においては、地域の健康課題に即した活動を推進する上で多くの課題を抱えている。エビデンスに基づいた効果的な活動を実施するために、「地区診断から始まる保健師の地区活動」をテーマに、前年度に引き続き平成 26 年度の保健師研修の企画について助言を行うとともに	今治保健所企画担当保健師、健康増進課保健師等	

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
		に、研修会において講義、実践事例の検討の助言を行った。		学部長
加藤徳雄	愛媛県立医療技術大学地域交流センター	地元の子どもを対象に実験を通して理科のおもしろさを発見し、自然科学への興味を喚起する「おもしろ理科教室」を3回実施した。開催時期は8月に1回、10月に2回。次年度も継続的に開催したい。	子どもとその保護者	基礎教育
野本百合子	愛媛県立病院	平成26年度当初から、県立4病院の教育担当者から依頼を受け、当該病院に所属する看護職員のうち、主に就職後3年目の職員を対象とする「看護過程（基礎編）」の研修企画に対する助言を行うとともに、講義及びグループワークへの助言などを行った。	愛媛県立4病院に所属する看護職員（主に3年目）	基礎看護学
相原ひろみ 岡田ルリ子	十全総合病院看護部	看護研究の研修について相談を受け、年間計画の立案・研修内容の企画・研修の講師を引き受けて実施した。平成26年度から計画の相談を開始し、平成27年度までかけて、看護研究の指導にあたっている。	十全総合病院看護師	
越智百枝	八幡浜市	管内保健師や介護職等アルコール依存症者及び家族の支援をする関係職種に対し、アルコール依存症の理解と支援についての講演を依頼され、企画・運営の助言を行った。平成26年12月25日に講演を行った。教室の運営についても相談があり助言している。来年度も継続して関係職種の教育について講演依頼されている。	アルコール依存症者及び家族を支援する関係職種	地域精神看護学
越智百枝	八幡浜市	八幡浜市管内のアルコール依存症者及び家族を対象にアルコール依存症の理解と家族のかかわりについて講演を依頼され、事業の企画・運営の助言を行った。平成27年3月5日に講演を行った。講演に先立ち行われた断酒会に参加し対象家族の現状を把握するとともに、個々の家族に必要な情報を講演内容に反映した。	アルコール依存症者及び家族	

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
越智百枝	日本精神科看護技術 協会 愛媛県支部	愛媛県支部研修会の一環として平成 27 年度の看護研究発表会に先駆け、看護研究についての講演依頼を受けた。平成 27 年 3 月に行われた看護研究発表会に参加し、愛媛県支部における看護研究の現状を把握するとともに、教育担当者に講演内容及び方法について助言を行った。今後は平成 27 年 5 月 16 日の講演に向けて、詳細な企画・運営について助言を行い実施していく予定である。	精神科看護師	地域 精神 看護学
越智百枝	日本看護協会	質的研究についての研修会の講演依頼を受け、講演内容と方法、事前アンケートの項目などの助言を行った。平成 27 年 8 月 5 日に講義予定となった。平成 27 年 7 月に事前アンケートの結果から受講者の研修希望をを踏まえ、講演内容を最終決定し講演する予定となっている。	看護師	
越智百枝	高松市保健所	平成 19 年から高松市保健所で行われているアルコール家族の集いに参加し、継続的に教室の企画・運営、保健師の役割などについて助言を行っている。また、教室参加者に対しては、毎回ミニレクチャーを行い、アルコール依存症、家族のかかわりの仕方などについての情報提供やグループ支援を行っている。	アルコール依存症者の家族	
越智百枝	鬼北町	アルコール依存症者及び家族を支援する可能性のある民生委員等の一般住民へのアルコール依存症の理解と支援についての講義依頼を受け、研修会の目的、一般住民に望むアルコール依存症者及び家族への支援の内容の明確化を行い、講義内容や方法について助言を行った。平成 27 年 7 月に研修会を実施する予定となった。	民生委員、食生活推進委員、精神保健ボランティアなど一般住民	
窪田静	大洲市役所	福祉用具リーダー養成講座の企画と継続開催、修了者による自主的な勉強会の継続と発展について助言し、参加した。	地域包括支援センター職員	

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
野村美千江 入野了士	愛媛県保健福祉部	平成 26 年度愛媛県中堅期保健師スキルアップ研修について企画・運営の相談を受けるとともに、研修評価への助言や指導等を行いつつ、7カ月間の継続的な研修に参画した。	医療対策課地域 看護係	地域 精神 看護学
田中美延里 奥田美恵	愛媛県保健福祉部	平成 26 年度愛媛県地域保健師等研修会(新任期・プリセプター対象)について相談を受け、企画参画兼講師として継続的な研修各 3 回を支援した。	医療対策課地域 看護係	
豊田ゆかり	愛媛県健康増進課	平成 26 年度母子保健担当者研修会	講師	母性 小児 看護学
上野恭子	愛媛看護協会	助産師職能委員会クリニカルラダー研修計画における計画書支援	県内新人助産師 及びプリセプター	
枝川千鶴子	社団法人愛媛県看護協会	社団法人愛媛県看護協会会員教育「院内における看護研究指導の改善」においてファシリテーターとしての役割を担った。	県内看護師	
枝川千鶴子	社団法人愛媛県看護協会	平成 26 年度愛媛県保健師助産師看護師等実習指導者講習会「小児看護学」の講義を担当した。	県内保健師・助産師・看護師	
枝川千鶴子	愛媛県保健福祉部障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」における講義および演習の講師	介護職員等	
中越 利佳	愛媛県看護連盟教育支部	看護連盟会員および一般看護職員及び看護教員を対象に 2 回の研修会を企画・運営した。 第 1 回「困っていませんか？SNS の利用と個人情報～わかりやすい法的問題の話」 第 2 回「指導の困難を感じる『個性』の話」	県内看護職者 看護教員	
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会 東予地区会	東予地区研修「院内助産を視野に入れた超音波研修」企画・運営	東予地区 助産師	
藤原紀世子	NPO 法人とベ子育て支援団体ぽっかぽか	「とべ子育てフェスタ 2014 看護師“お仕事体験”」について相談を受け、砥部町保健センターにおいて砥部町の子どもを対象に、看護師体験を 3 クールに分けて実施した。次年度以降は主催者から助産と看護を交互に実施してほしいとの要望を受けている。	砥部町の子ども と親	

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
中西純子	愛媛県保健福祉部生 きがい推進局長寿介 護課&障害福祉課	・平成 26 年度介護職員等によるたんの吸引等 のための研修実施委員会（特定の者及び不特 定の者）において、研修の企画、準備、運 営、実施 試験問題の作成、実施、合否判定に携わっ た。	県内の介護職員	成人 老年 看護学
松井美由紀	愛媛県保健福祉部管 理局医療対策課	「愛媛県がん看護実践に強い看護師育成事 業」の企画連絡構成員およびファシリテータ ーとして 40 日間研修にかかわり、事例発表会 などにも参加し助言指導を行った。次年度も 引き続き、企画も含めて研修のファシリテー ター役として関わる予定である。	県内看護師	
松井美由紀	愛媛県公営企業管理 局県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展 開」研修について企画運営の相談を受け、研 修講師およびファシリテーターとして関わっ た。次年度も引き続き、企画も含めて相談役 およびファシリテーター役として関わる予定 である。	県立病院看護職 員	
岡村絹代	愛南町	愛南町船越地区での「認知症ライフサポート 検討会 in 船越」開催の助言、企画、運営、評 価の支援を行った。	愛南町地域包括 支援センター、 船越地区町民 70 名	
岡村絹代	愛南町	平成 26 年度 健康づくり地区組織交流会の開 催において、助言、企画、運営、評価の支援 を行った。	愛南町健康推進 員、子育て推進 員、食生活改善 推進員 80 名	
北尾孝司	(一社)愛媛県臨床検 査技師会	(一社)愛媛県臨床検査技師会学術研修において 検査説明のできる検査技師に関する研修企画 を行いその内容について講師と内容等につ いて検討を行った。	県内臨床検査技 師	基礎 検査学
北尾孝司	(一社)愛媛県臨床検 査技師会	(一社)愛媛県臨床検査技師会学術研修において 医の匠から学ぶ虚血性心疾患に関する研修企 画を行いその内容について講師と内容等につ いて検討を行った。	県内臨床検査技 師	

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
北尾孝司	(一社)愛媛県臨床検査技師会	(一社)愛媛県臨床検査技師会精度管理研習会において学術部長からの相談を受け企画案の検討を行い実施した。	県内臨床検査技師	基礎 検査学
佐川輝高	科学を楽しむ会ほうしこ、とべ子育てNPO ぽっかぽか	夏休み科学教室の計画立案、子どもゆめ基金への助成応募、助成金獲得、夏休み中計5回の実施。次年度は実行委員会として組織を改変し実施する。また、既に計画立案、子どもゆめ基金への助成応募は完了している。	砥部町民	
		保健医療機関、行政、企業、関係団体など開催の講座、研修の支援合計数	<b>38 件</b>	

## 2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

氏名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー 構成と所属	成果の公表	講座
宮内清子	愛媛県介護予防市町支 援事業（愛媛県介護予 防市町支援助委員会） ＊市町支援助事業計画の 策定 ＊介護予防事業評価事 業 ＊介護予防事業推進方 策の検討	平成 26 年度介護予防市町支 援事業の計画策定、事業の運営に ついて、支援委員会の会長とし て役割を果たした。主な内容と して、平成 23 年度に作成した 「介護予防に関する指針（運動、 口腔、栄養、閉じこもり・認知 症予防）」の改訂版を使用し て、1 市町で「複合プログラム」 を実際に試行するモデル事業を 展開し、プログラムの評価を行 った。また、平成 24 年度から 重点事業となった地域包括ケア を推進するため、昨年度からモ デル事業を展開している 1 地区 の活動報告書の作成について助 言支援を行った。	愛媛県長寿介 護課担当者及 び愛媛県内の 介護予防に関 わる関係職種 (医師・歯科医 師・保健師・ 理学療法士・ 作業療法士・ 歯科衛生士・ 介護福祉士・ 住民代表等) から成る委員 会構成員	①モデル事 業報告書の 作成・関係 者への配布	学部長
宮内清子	第 5 期「愛媛県高齢者 保健福祉計画・愛媛県 介護保険事業支援計 画」の推進・評価、第 6 期計画に関する協 議、計画策定	愛媛県高齢者保健福祉計画等推 進委員会の副会長として、23 年 度に作成した第 5 期の「愛媛県 高齢者保健福祉計画・介護保険 事業支援計画」を評価するとと もに、平成 26 年度末を目途に 「第 6 期高齢者保健福祉計画並 びに介護保険事業支援計画」の 策定に関する協議を行い、計画 書の完成後は、知事説明を行っ た。	推進委員会の 構成員：学識 経験者、医師 会・歯科医師 会等関係団体 の長、高齢者 保健福祉に関 わる機関施設 等の代表者、 住民代表など	愛媛県第 6 期高齢者保 健福祉計 画・介護保 険事業支援 計画：「新 しい高齢者 保健福祉計 画・介護保 険事業計 画」を公 表、各関係 機関・団体 等に配布。	

氏名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容(関わり方も含めて) 研究方法および結果	メンバー 構成と所属	成果の公表	講座
宮内清子	愛媛県「母子保健研修事業」	母子保健法の改正に伴い、保健所と市町村の担う役割にも変化が生じていることから、愛媛県の主管課においては、3年計画で「母子保健研修事業」を実施することになり、その企画実施について助言・支援を行った。また、平成26年度は[PDCAサイクルに基づく母子保健事業の進め方]をテーマに年間5回の継続研修を支援し、参加型研修のスーパーバイズを行うとともに、必要に応じてミニ講義等を行った。併せて、年間のまとめとして「成果発表会」の助言支援を行った。	愛媛県保健福祉部健康増進課担当職員	研修プログラム並びに実施報告書を作成。	
宮内清子	愛媛県・日本公衆衛生協会主催(厚生労働省委託事業) 「保健師等ブロック研修会(中四国ブロック)」	自治体(保健所・市町)保健師等が効果的な保健活動を展開するための研修事業として、全国6ブロックにおいて毎年度実施しているもので、平成26年度は愛媛県が企画・運営を担当するため、本企画の助言・支援を行った。研修開催の3日間の運営の助言、プログラムの一つについて講演及び実践報告のコーディネーターを務めた。	愛媛県保健福祉部医療対策課担当職員	研修報告書作成・関係者配布	学部長
宮内清子	厚生労働省・愛媛県・松山市主催「健やか親子21全国大会」	母子保健国民運動計画「健やか親子21」の推進を目的として、毎年度実施している全国大会で、都道府県が輪番で担当しており、平成26年度は愛媛県で開催された。本大会の企画・運営に当たる愛媛県・松山市の主管部局の要請を受け、企画・実施に関する助言支援を行うとともに	愛媛県保健福祉部健康増進課母子保健担当、松山市健康づくり推進課母子保健担当	大会要項、実施報告書作成	

氏名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容(関わり方も含めて) 研究方法および結果	メンバー 構成と所属	成果の公表	講座
		に、当日のシンポジウムにおいて、ファシリテーターとして、基調講演の司会、実践報告の進行を行うとともに、シンポジウムの総括を担当した。			学部長
野本百合子	院内看護研究研修	平成 25 年度に実施した研究成果の発表に向け、データ分析、抄録のまとめ方などについて助言した。また、平成 26 年度に開始された研究に関し、研究計画書の作成、データ分析の方法、抄録のまとめ方について助言した。	四国がんセンター 看護師など約 40 名	院内研究発表会、国立病院学会等で発表	基礎 看護学
相原ひろみ	院内看護研究研修	院内看護研究の研修において、看護研究計画書の書き方、データ分析、論文の書き方等に関して、助言・指導を行った。	松山市民病院 の院内看護研究研修に参加した看護師 13 名	院内看護研究発表会および愛媛看護研究学会で発表	
野村美千江	自治体における生活習慣病重症化予防のための保健指導プログラムの効果検証	厚生労働科学研究補助金による戦略的研究(大阪大学)に協力し、介入自治体職員の研修や事例検討会の企画・実施等に参画した。	大阪大学大学 院医学系研究 科公衆衛生学	平成 30 年 3 月以降に 成果発表	地域 精神 看護学
野村美千江	看護系大学における保健師教育の体制に関する全国調査	全国保健師教育機関協議会主催の調査研究として、左記のテーマに関する調査企画・調査票の設計等に携わった。	全国保健師教育機関協議会 理事	総会報告ならびに教員 研修会報告	
野村美千江	保健師教育の教育評価—到達目標達成度に関する全国調査	全国保健師教育機関協議会主催の調査研究として、左記のテーマに関する調査企画・調査票の設計等に携わった。	全国保健師教育機関協議会 理事	総会報告ならびに教員 研修会報告	
野村美千江 田中美延里 奥田美恵 入野了士	自治体に働く中堅期保健師の専門能力を育成する 研修評価に関する研究	中堅期保健師研修(7ヵ月間)による受講者の専門能力育成を尺度を用いて評価するとともに、直属上司へのインタビューで職場への影響を評価した。	愛媛県医療対策課および愛媛県看護協会	平成 27 年度学会発表 予定	

氏名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容(関わり方も含めて) 研究方法および結果	メンバー 構成と所属	成果の公表	講座
野村美千江 奥田美恵 田中美延里	第2次砥部町健康づくり計画及び食育推進計画策定委員会ならびにワーキング	第2次砥部町健康づくり計画及び食育推進計画の策定のための調査研究・分析の助言	砥部町保険健康課	第2次砥部町健康づくり計画として公表	地域 精神 看護学
越智百枝	アダルトチルドレンの回復に関する研究	研究対象の確保に関する情報提供、連絡・調整、データ収集、データ分析への助言を行った。	香川県看護師	平成27年度学会発表予定	
越智百枝	看護師のハーディネスに関する研究	データ収集、データ分析への助言を行った。	香川県看護師	平成27年度学会発表予定	
越智百枝	アルコール依存症者の家族の断酒会に対する意識調査に関する研究	アンケート項目についての助言を行った	香川県看護師	平成27年度学会発表予定	
越智百枝	看護師の陰性感情に関する研究	データ分析、抄録作成に関する助言を行った	香川県看護師	平成27年度学会発表予定	
窪田静	保健師助産師看護師等実習指導者講習会	在宅看護論実習指導案作成	愛媛県看護協会	保健師助産師看護師等実習指導者講習会での発表、報告書	
田中美延里 奥田美恵	新任期保健師研修の評価に関する研究	新任期保健師中期研修において1年目・2年目保健師の交流を取り入れた効果を評価する調査を行った。	愛媛県医療対策課	平成26年度愛媛県地域保健研究集会にて発表	
上野恭子	学校保健委員会	事前アンケート作成、講演内容の調整	松山市内中学校養護教諭、中学生	研修会での報告書作成、発表	

氏名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容 (関わり方も含めて) 研究方法および結果	メンバー 構成と所属	成果の公表	講座
島田美鈴	愛媛労災病院看護部研修	①研究テーマ絞り込みから、研究計画書の作成の過程において、助言・指導を行った。 ②調査の実際と結果の分析および論文作成の指導を行った。	愛媛労災病院の看護師(①のメンバーは、研究を開始する4病棟の看護師20名弱。②のメンバーは、昨年の研究計画書作成から指導を行った4病棟の看護師20名弱。)	①は、平成26年9月に院内看護研究発表会にて発表した。②は、平成27年度の院内看護研究発表会にて発表予定である。	
松井美由紀	「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」の評価と活用に関する調査	・愛媛県看護協会における平成25年～26年度事業計画として実施し、調査結果および分析を共同的にすすめて今後の課題について検討した。 ・愛媛県看護研究会でその結果を発表し、報告書作成も実施した。	愛媛県看護協会看護管理教育委員会に属している者8名	愛媛県看護協会の事業報告書および研究会で報告した。	成人 老年 看護学
松井美由紀	「愛媛県看護協会研修活用システムの実践」についての内容支援	・愛媛県看護協会研修活用システム委員会にてラダーシステムや受講証明書等を導入した。新システムを導入した病院での取り組みを研究会報告する時に内容等を支援した。	愛媛県看護協会研修活用システム検討会に属している7名	愛媛県看護協会主催の愛媛県看護研究会で報告した。	
岡村絹代	認知症になっても住み慣れた町で暮らせる地域づくり「認知症ライフサポート検討会 in 船越」プロジェクト	・学会誌への投稿をめざし、指導・助言を行った。 ・データの分析を共同的に進め、事業の評価および今後の対策について検討した。	県内の看護師、保健師、医師など10名	2015年度の看護系学会誌へ投稿予定	

氏名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容 (関わり方も含めて) 研究方法および結果	メンバー 構成と所属	成果の公表	講座
北尾孝司	(一社)愛媛県臨床検査技師会	平成 26 年度精度管理事業調査のとりまとめた後の結果に関する考察について検討した。	(一社)愛媛県臨床検査技師会 学術部の臨床検査技師 5 名	報告書としてまとめ、関係諸機関に配布するとともに、精度管理研修会で発表した。	基礎 検査学
岡村法宜	カフェイン摂取による中枢神経興奮に対するテアニンの効果	研究計画の作成から、試験飲料の作製以外全ての実験を行った。	県外食品会社 研究所の研究員と本人	日本食品科学工学会 第 61 回大会で成果を発表	
		保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画合計数	<b>25 件</b>		

### 3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
草薙康城	一般	愛媛県の事業である「生涯を通じた女性の健康支援事業」における不妊相談アドバイザーとして、不妊症患者の相談を行った	月1回（心と体の健康センター）
脇坂浩之	愛媛大学耳鼻咽喉科 頭頸部外科医師	平成26年4月から平成27年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	市立宇和島病院耳鼻 咽喉科頭頸部外科医 師	平成26年4月から平成27年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	西条中央病院耳鼻咽 喉科頭頸部外科医師	平成26年4月から平成27年3月までの耳鼻咽喉科患者、頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
南 貴子	報道局記者	オーストラリアにおける生殖補助医療をめぐる法制度に関して、情報提供を行った。	メール
野本百合子 青木光子 岡田ルリ子 徳永なみじ 相原ひろみ 谷本淳子 和田弥生	看護技術教育検討会 （愛媛県下の看護職 養成機関に所属する 教員）	愛媛県下の看護師養成機関に所属する教員によって結成され、看護技術教育に焦点をあてた検討会である。共同で研究活動を行うとともに、県内看護教員を対象とした夏合宿の開催、報告書の発行等、看護技術教育の向上に向けた活動を実施し、情報の発信・交換を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局の担当</li> <li>・学習会のための会場確保</li> <li>・会員として、定例会議、夏合宿の企画・立案などの活動に参加</li> </ul>
野本百合子 （総括・企 画・運営） 岡田ルリ子 （企画・ 運営） 青木光子・ 徳永なみ じ・相原ひ ろみ・谷本 淳子・和田 弥生 （運営）	愛媛県看護教員 継続教育研修 （愛媛県下の看護職 養成教育機関に 所属する教員）	愛媛県の事業として実施された左記研修会の企画立案段階から関与し、研修会ⅠからⅢまでの3回にわたって研修会開催時の運営にあたった（谷本助教・和田助教は研修会Ⅱ以降）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の企画立案</li> <li>・外部講師との連絡・調整</li> <li>・研修会での講師・司会</li> <li>・会場の調整・提供</li> </ul>

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
青木光子 岡田ルリ子	日本看護管理学会	本学会は、看護サービスの組織的提供の仕組みを学術的に追及し、人々の健康と QOL の向上に寄与することを目的としている。平成 26 年度に松山市で開催された第 18 回日本看護管理学会学術集会の運営に協力した。	学術集会実行委員・ 研修会場の運営・受付
岡田ルリ子	専門職：看護師	「医療安全に関する研究」に着手したいとのことであったため、研究課題の絞り込みなど研究の進め方について助言し、文献検索を共に実施した。	来校
徳永なみじ	専門職：看護師	新人看護職員の教育方法、インシデントを起こした職員への継続的な指導方法に関する相談を受けた。	対面
相原ひろみ	専門職：県内看護職者	県内の病院に勤務する看護職者から、看護研究のデータ収集及び分析方法についての相談を受けた。	メール
越智百枝	高松市保健師	支援しているアルコール依存症者及び家族へのかかわりについて相談があり助言を行った。	電話・メール
越智百枝	八幡浜市保健師	支援しているアルコール依存症者及び家族へのかかわりについて相談があり助言を行った。	電話
越智百枝	八幡浜市保健師	八幡浜市管内の断酒会の発足・育成に向けて運営しているアルコール教室の運営について相談があり、助言を継続的に行っている	電話・メール
窪田静	県内の重度障害者	痙縮評価、車いす seating、コミュニケーション機器支援	訪問
窪田静	県内の重度障害者	コミュニケーション手段の評価と連携	訪問
窪田静	県内の重度障害児	リフトと吊り具の選定導入、行政・セラピストの連携	訪問
窪田静	医療機関の看護師	福祉用具活用看護技術	来校・訪問
中平洋子	専門職：看護師	看護研究の進め方について（テーマ決定とデータ分析）相談を受け、助言を行った。	来校・メール
中平洋子	専門職：看護師	看護研究の進め方について（データ分析と論文の書き方）相談を受け、助言を行った。	来校・メール
入野了士	専門職：看護師	看護研究のポスター発表の内容と方法について相談を受け、助言を行った。	来校・メール
入野了士	専門職：保健師	看護研究における文献について相談を受け、助言を行った。	電話・メール
入野了士	専門職：保健師	看護研究における文献について相談を受け、助言を行った。	電話・メール

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
豊田ゆかり	専門職：看護師（県内公立病院）	研究助言	面談、メール
豊田ゆかり	専門職：保健師（県内保健所・保健センター）	調査報告書作成助言	メール
上野恭子	県外養護教諭	学内の不妊で悩むヒトへの相談	面談
上野恭子	一般	乳房・乳頭トラブル、母乳育児に関する相談	電話、メール
中越利佳	一般	双子の育児に関する相談	電話、メール
森久美子	一般	乳房・乳頭トラブル、母乳育児に関する相談を受け、相談先の紹介を含めてアドバイスした。	電話
藤原紀世子	専門職：看護師（県内の公立病院）	小児救急看護の認定看護師を目指す看護師から相談を受け、看護実績報告書の添削を行った。	面談
島田美鈴	愛媛労災病院看護部教育委員の看護師長	2つの部署より看護研究計画について、研究方法の妥当性について相談があり、助言をした。	郵送・メール
島田美鈴	兵庫大学看護学科教員	学部学生の卒業研究の方法および指導について相談があり、助言をした。	電話
西田佳世	専門職：看護師1名（県内病院）	院内看護研究の計画立案および実施方法の助言と倫理的配慮の実際に関する助言、倫理委員会への申請に関する助言	メール・面談
西田佳世	専門職：看護師2名（県内病院）	院内の調査研究結果のまとめ方、学会発表演題の抄録作成の助言（平成27年5月学会発表予定）	メール・面談
西田佳世	専門職：看護師2名（県内病院）	認知症がある患者の入院中の看護体制に関する実態調査の調査方法、データ分析の助言	メール・面談
西田佳世	専門職：看護師1名（県内病院）	チーム医療（多職種連携）に関する研究計画立案・データ収集方法の助言 看護師を対象とした口腔ケアに関する意識調査の実施方法とデータ分析の助言	メール・面談
西田佳世	専門職：看護師1名（県内病院）	新人看護師と指導者との関係調整に関する相談	面談
西田佳世	専門職：看護教員1名（看護専門学校）	文献整理および質的データ分析に関する助言、学会発表準備に関する助言（抄録作成、口演原稿作成、スライド作成）	メール・面談

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
西田佳世	専門職：看護師 4 名 (県内病院研修会担当者)	高齢者看護に関する院内研修会において高齢者疑似体験を用いた演習を行う際の演習方法の助言，高齢者疑似体験セットの貸し出し	面談
則松良明	専門職：細胞検査士 (岡山県、広島県、福岡県、奈良県等の複数の施設)	子宮内膜、子宮頸部の細胞標本の診断について助言を行った	標本を送付してもらい鏡検し、結果を電話・メールにて報告した
則松良明	専門職：細胞検査士 (岡山県、広島県、奈良県等の複数の施設)	研究およびその成果を学会発表するための原稿作成についての助言および指導を行った	電話・メールおよび施設へ出向き直接指導した
高田智世	専門職：臨床検査技師(県外の病院)	検査で使用する抗凝固剤の血液生化学検査への影響について知識の提供をおこなった。	電話
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	研修会の講演内容について助言を求められ、必要な資料を渡して助言を行った。	来校
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	研修会の講演における抄録の査読を求められ、査読後メールで返信した。	電話にて相談を受け、抄録をメールで送ってもらった。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	研修会の講演内容について、作成されたスライドと発表内容について助言を求められ、助言を行った。	来校
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	末梢血標本について、血液疾患（特に好中球の異形成）の可能性の助言を求められた。検鏡した結果を電話で報告した。	電話にて相談を受け、標本を郵送してもらった。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	末梢血標本について、CML の寛解状態であるどうかについての助言を求められた。検鏡した結果を電話で報告した。	電話にて相談を受け、標本を郵送してもらった。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	末梢血に出現している異常細胞について、細胞の種類と形態学的特徴のコメントを求められ、細胞を観察してその結果を電話で連絡した。	郵送にて依頼を受けた。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	末梢血のデータと標本から考えられる疾患についてのコメントを求められ、標本を観察して電話でその結果を報告した。	郵送にて依頼を受けた。

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	末梢血に出現している異常細胞について、形態学的特徴とその帰属に関するコメントを求められ、細胞を観察して結果を電話で連絡した。	郵送にて依頼を受けた。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	末梢血の分類についてコメントを求められ、標本を観察して結果を電話で連絡した。	郵送にて依頼を受けた。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	末梢血に出現している異常細胞について細胞の帰属に関するコメントを求められ、検鏡後電話にて連絡した。	郵送にて依頼を受けた。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	研修会の講演内容(2演題で発表者2名)について、作成されたスライドと発表内容について助言を求められ、助言を行った。	来校
坂東史郎	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	末梢血に出現している異常細胞について細胞の帰属に関するコメントを求められ、検鏡後電話にて連絡した。	郵送にて依頼を受けた。
北尾孝司	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	「ビブリオ属による敗血症について」に関して質問を受けて共に考えた。	面談
北尾孝司	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	「プラスミド性 AmpC 産生 β ラクタマーゼ産生 Klebsiella 属菌について」に関して質問を受けて共に考えた。	面談
岡村法宜	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	小児心エコーのコツと注意する点についてメールで相談を受け、土曜日に2回実習を行った。	メール・来学
岡村法宜	専門職：臨床検査技師(県内の病院)	脳波の症例報告に関する相談をメールで受け、発表前に症例の解釈と効果的な発表法について助言を行った。	メール・来学
		保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する 専門職や一般の方の相談対応合計数	58件

## 4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏名	支援した会の名称 と構成メンバー	支援した会や団体の特性 (目的、活動内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
宮内清子	公衆衛生看護活動に関する自主学習会「ざくざく」 構成メンバー：愛媛県内の保健所・市町・地域包括支援センター・行政機関等に就業している保健師 約30名	愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、地域における健康づくり活動について研さんすることを目的に自主的に結成した学習会で、13年目を迎えた。 隔月開催で、平成26年度は、本学の卒業生など新人保健師の参加が増加したため、世代別のグループ討論などを組み込むとともに、保健師本来の活動である「地域診断に基づく保健師活動」をテーマにメンバー各自が年度当初に立てた目標に向かって実践し、6回の学習会で報告・共有し、討論を行った。また、各メンバーのキャリアアップ等をテーマに実践報告を行うなど、討議方式で研修を行っている。	スーパーバイザーとして参加、ミニ講義、情報提供、テーマ学習への助言などの役割を担っている。
宮内清子	日本ALS協会愛媛県支部構成メンバー：愛媛県内のALS患者・家族・支援者等	愛媛県内の在宅ALS患者・家族・支援者などで組織しており、総会・学習会・広報活動などを行っている。本学の学生祭には4年前からバザー・署名活動などの目的で参加し、学生との交流も少しずつ進んでいる。	「顧問」として、保健医療の専門家の立場から、社会的支援等の助言・支援、情報提供、相談に関わっている。
宮内清子	NPO「チャイルド・オレンジ・ネットワーク」 構成メンバー：子ども虐待を含む地域の子育て支援に関心のある社会福祉士、民生児童委員、臨床心理士、保健師等	子どもの虐待防止を含む地域の子育て支援活動に取り組んでいるNPOで、松山市青少年センターを拠点に、相談活動、各種研修事業、意識啓発活動などを草の根的に推進している。また、社会福祉士会等の団体や児童相談所等とのネットワーク構築を目標の一つに掲げ、希薄になりつつある地域の繋がりや家族関係を修復していく活動を積極的に展開している。	NPOが取り組む各種事業の方向性の検討や、研修事業の企画・実施・評価等に、必要に応じて助言者的な立場で関わっている。
加藤徳雄	NPO 科学を楽しむ会ほうしこ	小学生に科学教室を提供し、科学と生活の関わりを実感しながら科学的な思考を育む手助けをすることを目的とする。砥部町内の公民館や児童館を巡回し、全5回の理科実験教室を開催した。	運営・実施

氏名	支援した会の名称 と構成メンバー	支援した会や団体の特性 (目的、活動内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
野本百合子 青木光子 岡田ルリ子 徳永なみじ 相原ひろみ 谷本淳子 和田弥生	看護技術教育検討会 (愛媛県下の看護職養成 機関に所属する教員)	愛媛県下の看護師養成機関に所属する教員によつて結成され、看護技術教育に焦点をあてた検討会である。共同で研究活動を行うとともに、県内看護教員を対象とした夏合宿の開催、報告書の発行等、看護技術教育の向上に向けた活動を実施し、情報の発信・交換を行った。	・事務局の担当 ・学習会のための会場確保 ・会員として、定例会議、夏合宿の企画・立案などの活動に参加
野本百合子 (総括・企画・運営) 岡田ルリ子 (企画・運営) 青木光子・ 徳永なみ じ・相原ひ ろみ・谷本 淳子・和田 弥生 (運営)	愛媛県看護教員 継続教育研修 (愛媛県下の看護職 養成教育機関に 所属する教員)	愛媛県の事業として実施された左記研修会の企画立案段階から関与し、研修会ⅠからⅢまでの3回にわたって研修会開催時の運営にあたった(谷本助教・和田助教は研修会Ⅱ以降)。	・研修会の企画立案 ・外部講師との連絡・調整 ・研修会での講師・司会 ・会場の調整・提供
青木光子 岡田ルリ子	日本看護管理学会	本学会は、看護サービスの組織的提供の仕組みを学術的に追及し、人々の健康とQOLの向上に寄与することを目的としている。平成26年度に松山市で開催された第18回日本看護管理学会学術集会の運営に協力した。	学術集会実行委員 ・研修会場の運営 ・受付
越智百枝	愛媛県断酒会	愛媛県断酒会ワンナイトセミナーに参加し、アルコール依存症、アルコール依存症者及び家族の心理と回復、家族のかかわり方についてミニレクチャーを行った。	研修会の講師
越智百枝	徳島県断酒会の家族会	第1回中・四国家族一泊研修会に参加し、アルコール依存症、アルコール依存症者及び家族の心理と回復、家族のかかわり方についてミニレクチャーを行った。	研修会の講師

氏名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性 (目的、活動内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
越智百枝	香川県断酒会	香川県断酒会一泊研修会及び香川県断酒会家族一泊研修会に参加し、アルコール依存症、アルコール依存症者及び家族の心理と回復、家族のかかわり方、仲間への支援をする際に気を付けることなどについてミニレクチャーを行った。	研修会の講師
越智百枝	高知県断酒会	松村断酒学校に参加し、分科会で家族会の活動の現状や活動を行う上での困難などの情報交換会に参加し、家族会運営について助言を行った。	研修会の講師
窪田静	愛媛福祉用具ケア技術研究会	第3回えひめ福祉用具フェアフロアーセミナー	講師養成 教材作成指導 継続勉強会の企画運営と指導
豊田ゆかり	子育て支援団体 NPO 法人ぽっかぽか	砥部町 子育て支援ネットワーク会議参加及び NPO 法人ぽっかぽか活動支援	企画・運営
中越利佳	いのちの懇談会えひめ	いのちの懇談会愛媛が主催する生命尊重講演会開催に向けての企画、相談、助言	企画
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会 お産グループ	お産自主グループ研修 「事例検討でその人らしいお産のケアを探求しよう！」企画・運営	企画・講師運営
井上明子	特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	「2014 こどものゆめプロジェクト 子どものいのちと体を守るお仕事体験」において、子どもたちを対象とした医療職の体験をする催しがエミフル MASAKI において行われた。	「助産師」ブースの担当
中西純子	高次脳機能障害者を支える会（家族会）「あい」	・愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。 毎月1回の例会で、当事者とのレクリエーションや家族との情報交換、相談支援をしている。	顧問として相談、助言
坂東史郎、 野島一雄、 大崎博之、 岡村法宜	NPO 法人とベ子育て支援団体ぽっかぽか	とべ子育てフェスタ 2014 の「とべキッズお仕事体験」に参加。体験することにより、働くことの喜びを知ってもらうため、毎年1回実施している。対象は幼児～小学生で親子での参加が基本となっている。	臨床検査技師の仕事の説明と、血液型判定と超音波検査の実際を見てもらった。

氏名	支援した会の名称 と構成メンバー	支援した会や団体の特性 (目的、活動内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
坂東史郎	NPO 法人 ラ・ファミ リエ	「子どものいのちと体を守るお仕事体験」を通して、子ども達の将来の夢や仕事に関する情報を提供し、子ども達が将来社会の一因として育つことを願う子ども達が主体となって参加し夢や仕事を考える機会となる事業を行うことを目的とする。	臨床検査技師の仕事の パネル展示と顕微鏡観察や血液型判定を行った。
		患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援合計数	19 件

## 5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	愛媛県介護保険審査会	県内市町における介護保険事業の実施において、住民から出された各種の申し立てに対する審査を実施する組織で、弁護士・保健福祉分野の専門職・公益代表等で構成されている。介護保険制度の適用が高齢者の生活と健康に資するよう、申請案件について審査の適正な実施に努めた。	保健福祉関係委員
宮内清子	愛媛県介護予防市町支援委員会	市町の介護予防に関する施策の円滑な推進を目的に、平成18年度から設置されており、市町の介護予防事業の進捗状況の把握及び事業評価、地域包括支援センターの運営支援、介護予防事業のプログラム開発及び指導教材作成等を行っている。平成26年度は、前年度に改定した「介護予防に関する指針」を用いて、「複合プログラム」の地域への浸透、地域包括ケアモデル事業の支援と評価に取り組んだ。	委員長
宮内清子	愛媛県高齢者保健福祉計画等推進委員会	平成11年度から愛媛県の高齢者保健福祉対策に関する計画策定、進行管理、進捗状況及び成果の評価などを行う目的で設置されており、3年ごとに実態把握・評価を行い計画の修正を行っている。平成26年度は、第5期計画に基づく事業の進捗状況の確認・評価を行うとともに、第6期計画策定に向けて協議し、計画書作成を行った。	会長
宮内清子	松山市社会福祉審議会	高齢者専門分科会、民生・児童委員審査専門分科会に所属し、担当分野の審議を行う。高齢者専門分科会では、平成26年度は、第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定年度に当たっており、第5期計画を評価し、向後3年間の事業推進の骨格となる計画策定について協議し計画書を作成した。策定した計画書は、会長とともに松山市長に報告し、計画に沿った事業の実現を要請した。民生委員分科会では、民生児童委員の交代の審査等に関わった。	審議会委員(学識経験者) 高齢者専門分科会副会長

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	松山市社会福祉施設整備審査会	高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設等の設置・改修などが適正に行われることを目標に、申請書類の審査、ヒアリング、修正指導などを審査会の委員として担っている。特に、対象者の自立支援や災害時の支援の必要性、耐震化の問題等、全国的な課題を踏まえての検討に注力している。	委員（学識経験者）
宮内清子	日本地域看護学会	地域看護学の学術的発展と教育・普及を目的とする学会。 評議員会に参加し、学会運営等に関する協議を行う。 また、平成24年度から、学会誌の査読委員を務めている。	評議員、 学会誌査読委員
宮内清子	新居浜市地域包括支援センター運営協議会	新居浜市の介護予防事業の要である地域包括支援船体の運営に関する外部機関として設置されており、センター事業の的確かつ公平・公正な運営に関して助言・支援・評価を行う。また、市町が認可する介護予防関連施設の選定について、諮問を受ける。	委員（学識経験者）
宮内清子	松山市社会福祉協議会 社会福祉活動推進委員会	松山市の委託を受けて、松山市社会福祉活動計画の策定をはじめ地域福祉活動の計画（なもしプラン）の策定・進行管理、地区社会福祉協議会活動の支援を行う。	委員、 アドバイザー
宮内清子	西条市介護保険事業計画策定委員会	平成11年度から介護保険事業計画の策定、進行管理、事業の評価等を目的に設置されており、3年ごとに実態把握・評価を行い計画の見直しを行っている。平成25年度は、23年度に策定した第5期計画の進行管理、災害に対する高齢者施設等の体制整備に関する規則等の整備について役割を果たした。	審議会委員（学識経験者）
宮内清子	松前町高齢者福祉計画策定委員会	平成11年度から介護保険事業計画の策定、進行管理、事業の評価等を目的に設置されており、3年ごとに実態把握・評価を行い計画の見直しを行っている。平成25年度は、23年度に策定した第5期計画の進行管理、介護保険サービスの資質向上について検討を行った。	委員（学識経験者）

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	愛媛県障害者介護給付費等不服審査会	障害者自立支援法に基づく介護給付について、市町の給付決定に対して不服がある場合愛媛県に不服審査の請求が出されるため、その審査を行うために設置されている委員会であり、審査事案が提出された際の審査に関わっている。	委員（専門職）
宮内清子	愛媛県看護協会「看護師等の育成に関する推進協議会」委員	愛媛県内の看護師等の研修の現状と課題を関係者が共通認識し、今後の育成の在り方を検討することにより、質の高い看護師等の確保・定着を図ることを目的に、平成23年度に愛媛県の委託事業として設置された。検討期間は3年間で、県内各地の特性やニーズに応じた研修体制の在り方について情報交換を行うとともに、2年目の事業の進行について検討をスタートした。	委員(看護教育関係者)
宮内清子	平成26年度介護職員等によるたんの吸引等を実施するための研修委員会(不特定の者対象)(特定の者対象)	平成23年度の介護保険法一部改正により、一定の条件下において介護職員等のたんの吸引等の医行為を実施することができることになり、各都道府県が研修を実施する必要性が生じたことから、受講者の実技及び筆記試験の合否を判定する目的で設置された。平成26年度は、長寿介護課及び障害福祉課の要請を受けて研修機関として参画し、事業の企画・運営・受講者の評価判定に関わった。	委員(専門職)
宮内清子	愛媛県障害児通所給付費等不服審査会	障害者総合支援法に基づく障害児の通所給付費について、市町の給付決定に対して不服がある場合愛媛県に不服審査の請求が出されるため、その審査を行うために設置されている委員会であり、審査事案が提出された際の審査に関わっている。	委員(専門職)
宮内清子	松山市社会福祉事業団	松山市社会福祉事業団が実施する事業の計画・運営について協議する理事会の構成員として、各種社会福祉事業の運営が適正に実施されているかについて審議に加わっている。また、事業団の知的障害者の就労支援事業である『パンなどの販売事業』は本学の学生祭とのコラボレーションが実現し、双方にとって有効な事業になっている。	理事（保健福祉学識経験者）

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	愛媛県看護協会創立40周年記念事業企画委員会	昭和49年、愛媛県看護協会は、保健師・助産師・看護師の職種別の部会から、愛媛県の看護職の組織として1本化された。平成25年度から、40周年記念事業の実施に向けて委員会を立ち上げ、企画・運営に着手しており、これまで、理事・副会長などの役割を担ってきた立場から、本記念事業の企画・運営に参画した。平成26年度は、40周年記念事業の企画、協会ロゴマークの公募・選定に関わるとともに、40周年記念誌の発刊に向けて、全体構成、プログラム作成、歴代会長による座談会の企画及び進行を担当した。	委員（役員経験者）
草薙康城	愛媛県産婦人科医会	愛媛県における、母子の生命、健康を保護するとともに、女性の健康を保持・増進し、もって国民の保健の向上に寄与することを目的とする。	常任理事（学術、がん対策担当）、編集委員
草薙康城	愛媛県女性の健康支援事業連絡協議会	愛媛県における、女性の健康の向上に寄与することを目的とする。	委員
草薙康城	愛媛県生殖内分泌研究会	愛媛県における生殖医療を向上させることを目的とする。おもな事業は、学術研究会の開催。	世話人
草薙康城	日本産科婦人科学会専門医制度委員会	日本産科婦人科学会専門医研修施設の選定、専門医の認定を行う。	委員
草薙康城	愛媛県生活習慣病予防協議会委員	愛媛県における検診制度等を立案する。	委員
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員
脇坂浩之	愛媛医療解剖教育研究会	県下の医療系学校の解剖学教育教員が集まり、メディカルの解剖学教育のありかたについて研究および実習を行っている。	監事
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における県委員会委員	委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」の県委員会委員	委員
鳥居順子	愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するために設置されている	委員
鳥居順子	愛媛県公害審査委員候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく	候補者
鳥居順子	調停委員会	公害紛争処理法に基づく公害調停	調停委員
鳥居順子	愛媛県国民健康保険審査会	愛媛県において、国民健康保険法に基づき保険給付に関する処分他の処分に不服がある者の審査請求を受けて審理する	委員
鳥居順子	NPO 法人禁煙推進の会 えひめ	喫煙の及ぼす有害性と禁煙の必要性を広く県内外に向けて啓発する。主な事業は世界禁煙デーに因んでの啓発活動、学校での喫煙防止教育、県や市町での禁煙啓発活動、研修フォーラムの開催	理事
野本百合子	日本看護教育学学会	看護教育学の発展を図り、広く知識の交流を深めることを目的として活動している。主な活動は、月1回の定例会と年1回の学術集会の開催、学会誌の発行等である。	理事長
野本百合子	愛媛県看護協会	愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年1回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催しており、その中で、教育講演「実践に活かすための看護研究」を実施した。	教育委員第34回 愛媛看護研究学会 実行委員
野本百合子	愛媛県看護協会研修活用システム検討ワーキング（教育委員会下部組織・愛媛県看護協会）	愛媛県内の中小規模病院が、看護協会の研修会を有効活用できるようなモデルを示すための検討ワーキンググループを組織し、リーダーを務め、ほぼ目標を達成した。	リーダー

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子	新人職員研修推進協議会 (愛媛県看護協会)	県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置された協議会であり、新人看護職員の研修体制及び指導者の育成のための検討や研修会を開催する。	委員
野本百合子	日本看護学教育学会	看護学教育の向上を図り、看護学の発展に寄与することを目的とし、看護学教育を行っている大学、短期大学、養成所、高等学校など多様な看護基礎教育機関に所属している教員や大学院教育に従事している教員や看護実践家などが活動している。この学会に投稿された論文を査読する役割を担っている。	査読委員
野本百合子	えひめ女性財団	愛媛県における男女共同参画社会づくりを推進することを目的とし、男女共同参画社会づくりに関する意識啓発をはじめ、女性の交流促進とネットワークづくりなど社会活動の促進等を基本方針とした事業や愛媛県男女共同参画センターの管理運営を行っている財団の活動や予算計画に対して評議員としての意見述べるなどの役割を担っている。	評議員
野本百合子 徳永なみじ	日本看護技術学会第14 回学術集会	本会は看護技術の検証と開発を追究し、もって看護実践の向上に寄与することを目的とする。平成27年度に松山市で開催される学術集会の開催に向け、企画・運営に関わっている。	企画委員
岡田ルリ子	社会福祉法人南風会	砥部町にある、主に精神障害のある人を対象とした就労継続支援事業所等を運営。対象者が自分自身の生き方を自己選択、自己決定しながら地域で生活していくための福祉サービスの推進や支援。	評議員
徳永なみじ	看護生理学研究会 (看護生理学領域の研究者)	看護生理学研究を手掛ける看護学研究者相互の研究交流を図り、看護学の、特に生理学的研究水準の向上に貢献するとともに、広く学術の成果を教育と実践の名に還元することを目的としている。	監事・企画運営
徳永なみじ 相原ひろみ	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事(書記)として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	監事 書記

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
相原ひろみ	日本看護研究学会	日本看護研究学会は、広く看護学の研究者を組織し、看護学の教育、研究及び進歩発展に寄与する事を目的に発足した学会であり、学術集会の開催、学術講演会の開催、学会誌の発行、奨学会事業、関係学術団体との連絡、提携等の事業を通して学会の目的を果たしている。この学会に投稿された論文を査読する役割を担っている。	学会誌査読委員
野村美千江	日本公衆衛生学会	公衆衛生学の進歩発展と会員相互の研鑽を計り、わが国公衆衛生の向上に資することを目的とする学会。評議員は会長・副会長の選出や学会総会に付議する事項等を審議する。	評議員
野村美千江	日本公衆衛生看護学会	公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざし、もって国民の健康増進と社会の安寧に寄与することを目的とする。	評議員 教育研修委員 学会誌査読委員
野村美千江	日本地域看護学会	地域看護学の学術的発展と教育・普及を図り、人々の健康と福祉に貢献することを目的とする。	学会誌査読委員
野村美千江	日本在宅ケア学会	在宅ケアに関する学術活動並びに在宅医学会他の団体と協働した在宅ケアの推進	学会誌査読委員
野村美千江	日本家族看護学会	家族看護学の発展に帰する学術活動と交際交流	学会誌査読委員
野村美千江	大学基準協会大学評価委員会	大学の認証評価機関として、申請のあった大学の評価を行う。	分科会委員
野村美千江	全国保健師教育機関協議会	全国の保健師教育機関の発展と、保健師教育の充実を図るために全国規模で、教員研修会、保健師教育課程の検討、保健師国家試験対策、地区別のブロック活動を実施している。	副会長 国家試験対策委員
野村美千江	愛媛県認知症施策推進会議	愛媛県における認知症施策を有効に推進する方略と市町支援について検討することを目的とする。	委員長
野村美千江	愛媛県認知症連携パス検討委員会	認知症連携パスの意義・必要性について検討を行い、作成と活用方法を検討する。	委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野村美千江	愛媛県後期高齢者医療広域連合懇話会	愛媛県後期高齢者医療の運営に関し、必要な意見の交換や調査、審議、さらに広域連合会長への意見具申等を行う。	委員
野村美千江	松山市自殺対策委員会	松山市自殺対策基本条例に基づき、市町の諮問に応じ、松山市自殺対策基本計画の策定および実施に関する事項を調査審議する。	委員長
野村美千江	松山市健康づくり計画策定専門委員会	松山市健康づくり計画の進捗状況や周知方法、新たな健康課題等について意見交換し、計画の効果的な運用に貢献する。	委員
野村美千江	砥部町国民健康保険運営協議会	国民健康保険の運営に関し、必要な意見の交換や調査、審議、さらに町長への意見具申等を行う。	委員長
野村美千江	砥部町健康づくり計画及び食育推進計画策定委員会	第二次健康づくり計画及び食育推進計画の策定を行う。	委員
越智百枝	精神医療審査会	平成 26 年 8 月より審査会委員の委嘱を受け、毎月 1 回措置入院患者及び医療保護入院患者の入院届、定期病状報告の事前審査を行い、審査会に出席し意見を述べた。	委員
越智百枝	日本看護研究学会評議員	平成 26 年 4 月より評議員の委嘱を受け、評議員会への参加にした。また、平成 27 年 8 月に開催される日本看護研究学会査読委員として学会発表 11 件の査読を行った。	評議員
越智百枝	高知女子学会査読委員	平成 26 年度査読委員として高知女子学会誌への投稿原稿の査読を 2 件行った。	査読委員
窪田静	愛媛県看護協会	在宅ケア推進委員会	委員
窪田静	三輪書店	作業療法ジャーナル	編集同人
窪田静	愛媛県社会福祉協議会	第 3 回えひめ福祉用具フェア実行委員会	委員
田中美延里	日本質的心理学会	第 11 会松山大会の企画・運営に携わった。	準備・実行委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
奥田美恵	愛媛県看護協会 まちの保健室運営委員会	愛媛県における「まちの保健室」の運営、ボランティア育成、看護の日記念行事の企画・運営を行った	委員
奥田美恵	高知女子大学看護学会誌	看護の実践・教育・研究の発展に貢献する	査読委員
奥田美恵	日本健康運動指導士会愛媛県支部	健康づくり運動を担う専門家として社会貢献に寄与する	理事
入野了士	愛媛県看護協会	人材育成や分野間連携にかかる課題解決等の職能活動として、毎月1回委員会を開催し、研修企画・実施・評価、研究活動実施、キッズ・フェスタでの子育て相談ブースの開設等を行った。	保健師職能委員
入野了士	日本地域看護学会	岡山県岡山市で開催された第17回学術集会の運営に携わった。	実行委員
入野了士	日本看護管理学会	松山市で開催された第18回学術集会の運営に携わった。	実行委員
北原悦子	日本看護科学学会	年2回の代議員大会参加と学会活動の支援	代議員
北原悦子	日本看護管理学会	年2回の代議員大会参加と学会活動の支援	代議員
北原悦子	日本看護学教育学会	専任査読委員としての活動（1期3年） 学術論文の査読 1編	専任査読者
北原悦子	日本看護科学学会	第34回日本看護科学学会学術集会（名古屋市）に応募された演題10題の査読	査読
北原悦子	日本看護科学学会	学会の優秀論文賞の査読（和文7、英文1）	査読
北原悦子	日本看護管理学会	第18回日本看護管理学会学術集会（愛媛県松山市）の企画委員として数回の会議、学会の運営にあたった	学会企画委員
北原悦子	日本看護管理学会	第18回日本看護管理学会学術集会（愛媛県松山市）に応募された演題の査読 6編	査読

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
北原悦子	日本看護管理学会	第18回学術集会（愛媛）の一般演題口演「チーム医療」の座長	全国学会座長
北原悦子	日本看護学教育学会	第25回学術集会日本看護学教育学会（徳島市）に応募された演題の査読 3題	査読
豊田ゆかり	日本新生児看護学会	第24回日本新生児看護学会学術集会に登録された研究の査読	査読委員
豊田ゆかり	日本看護学会（急性期看護）	第46回日本看護学会（急性期看護）学術集会準備委員	委員
豊田ゆかり	松前町国保連合会委員	松前町国保連合会委員	委員（学識経験者）
上野恭子	日本新生児看護学会	愛媛県で開催される第24回日本新生児看護学会学術集会に応募された演題の査読	査読
上野恭子	日本不妊カウンセリンが学会	平成26年度学会運営、養成講座についての検討	日本不妊カウンセリン学会 評議員
上野恭子	The Journal of Nursing Investigation 誌	The Journal of Nursing Investigation 誌投稿論文審査	査読審査
上野恭子	第18回日本看護管理学会学術集会	会場設営、部門会場インフォメーションエクステンジ進行責任者	全国学会実行委員
上野恭子	日本不妊カウンセリン学会	日本不妊カウンセリング学会不妊カウンセラー、体外受精コーディネーター認定試験問題作成	試験問題作成
上野恭子	日本看護協会	「日本のお産を守れ！プロジェクト」の全国的な推進に関する検討委員会平成26年度クリニカルリーダー、病院出向等に関する検討、提言	「日本のお産を守れ！プロジェクト」検討委員
上野恭子	日本不妊カウンセリンが学会	日本不妊カウンセリング学会誌論文の査読	査読
枝川千鶴子	日本新生児看護学会	第24回日本新生児看護学会学術集会に登録された研究の査読	査読委員
枝川千鶴子	日本小児がん看護学会	第12回日本小児がん看護学会学術集会に登録された研究の査読	査読委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
枝川千鶴子	特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	病気の子どもと家族をサポートする活動を計画・実施	理事
中越利佳	NPO 法人いのちの懇談 会愛媛	愛媛県内の生命尊重活動として生命尊重セミナーを年1回開催。セミナーの企画、運営を担当	理事
中越利佳	日本新生児看護学会	愛媛県で開催される第24回日本新生児看護学会学術集会に応募された演題の査読	査読
中越利佳	国際看護研究会学術集会	第17回国際看護研究会学術集会における演題査読	査読
中越利佳	第18回日本看護管理学会学術集会	会場設営、インフォメーションエクステンション進行、誘導	全国学会実行委員
中越利佳	愛媛県看護連盟教育支部	教育支部役員として、研修会開催や会員獲得、連盟活動に従事	支部役員
中越利佳	愛媛県助産師会	ニュースレター発行	広報委員
今村朋子	(社)全国助産師教育協議会	広報委員会 ホームページ担当委員	広報委員
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会	会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行、広報グッズ販売管理	広報委員長
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会 東予地区会	東予地区役員として組織運営に携わることで、助産師活動の活性化と母子保健に貢献することを目的に活動。研修・イベントの企画運営等	東予地区役員
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会	県内2カ所の助産所機能評価を行った。	機能評価員
今村朋子	第18回日本看護管理学会学術集会	第18回日本看護管理学会学術集会（愛媛県 松山市）の実行委員として会場係を担当した。	全国学会実行委員
森久美子	愛媛助産師会	県の地域少子化対策強化交付金事業の「えひめの母子保健知識普及事業○産後情報提供体制整備フィージビリティスタディ」のメンバーとして企画・まとめを行った。	助産師会会員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
藤原紀世子	日本新生児看護学会	愛媛県で開催される第24回日本新生児看護学会学術集会に応募された演題の査読	査読
井上明子	日本助産学会	日本助産学会誌に投稿された論文の査読	査読
中西純子	一般社団法人日本看護研究学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献</li> <li>学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動</li> <li>東北大地震被災看護学生に対する支援金の呼びかけと適正配分</li> </ul>	理事 編集委員 大規模災害支援委員会委員
中西純子	一般社団法人日本看護研究学会 中国・四国地方会	地方会活動として、学術集会の開催、研究活動の推進（学術セミナー）、ニューズレターの発行、運営委員会、学術委員会の開催等。	運営委員
中西純子	日本看護診断学会	看護診断の発展、普及を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	評議員 学会誌査読委員
中西純子	愛媛県看護部長・教務責任者協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の看護の質の向上と医療の発展に貢献するとともに、会員相互の情報交換・研鑽を図る。</li> <li>年1回の総会および年2回の研修会開催</li> </ul>	理事
中西純子	平成26年度介護職員等によるたんの吸引等のための研修実施委員会（特定の者及び不特定の者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の企画、準備、運営、実施</li> <li>試験問題の作成、実施、合否判定</li> </ul>	実施委員
中西純子	平成26年度愛媛県中小病院等看護体制支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>中小病院コンサルティング事業5回/10月～3月（申し出のあった病院にコンサルタントとして助言を行う）</li> <li>前年度のコンサルティング事業対象病院のフォローアップ</li> </ul>	検討委員（学識経験者の立場から） ならびにコンサルタント
中西純子	高知県立大学看護研究倫理審査委員会	左記大学の倫理委員会が適正に機能しているかどうか、外部委員として参加	外部委員
中西純子	高知女子大学看護学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>高知女子大学看護学会の発展に貢献。主な事業は、学術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など</li> <li>左記学会の論文査読を年1件程度担当</li> </ul>	学会誌査読委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	日本看護学教育学会第25回学術集会	・学術集会の企画ならびに運営検討	企画委員
中西純子	日本看護研究学会第41回学術集会	・学術集会の企画ならびに運営検討	企画委員
中西純子	愛媛県ナースセンター運営委員会	・ナースセンターの運営について検討 年2回委員会開催	運営委員
中西純子	日本看護管理学会第18回学術集会	・学会の当日運営	実行委員
島田美鈴	高知女子大学看護学会	・高知女子大学看護学会の発展に貢献。主な事業は、学術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など ・左記学会の論文査読を年1件程度担当	学会誌査読委員
島田美鈴	第46回日本看護学会一急性期看護一学術集会抄録選考委員会	・日本看護学会の発展に貢献。第46回学術集会の開催にあたり、学会発表抄録の選考を行う。	抄録選考委員会委員
西田佳世	日本糖尿病教育・看護学会	・糖尿病教育・看護の専門家として実践に応用できる研究の推進。学会誌に投稿された糖尿病教育・看護に関する研究論文の査読	学会誌専任査読委員
西田佳世	日本糖尿病教育・看護学会編集委員会	・糖尿病教育・看護の専門家として実践に応用できる研究の推進。学会誌に投稿された糖尿病教育・看護に関する研究論文の編集 ・論文投稿支援に向けた研修・セミナーの企画、運営	編集委員
西田佳世	社会福祉法人広寿会 第三者委員会	・高齢者施設利用者の権利を擁護するとともに、利用者が福祉サービスを適切に利用できるように支援する ・利用者、家族の苦情対応および施設サービス向上の推進	第三者委員
西田佳世	日本看護研究学会中国・四国地方会	・日本看護研究学会の中国・四国地方の会員の研究活動の推進と成果報告及び学術委員会の企画・運営	運営委員 学術委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
岡村絹代	愛南町愛なん食育プラン協働委員会	・食育推進協議会・食育プラン協働委員会に参加し、中期計画の評価・第2期食育推進計画の策定について助言	委員
岡村絹代	愛南町ぎょしょく普及推進協議会	・愛南町水産物の利用促進活動の推進と、ぎょしょく教育を柱としたぎょしょく普及活動の推進に向けて助言・情報提供	委員
松井美由紀	愛媛県看護協会看護管理者教育委員会	・愛媛県看護協会で開催される看護管理者研修「ファーストレベル」「セカンドレベル」の企画・運営・評価	委員
松井美由紀	愛媛県看護協会研修活用システム検討会議	・愛媛県看護協会で開催される研修におけるラダーシステム等の導入に関する検討および評価	委員
松井美由紀	愛媛県がん看護実践に強い看護師育成事業	・愛媛県内のがん看護の質向上を目的に、プログラム企画・実施・運営および評価	企画連絡会構成員
松井美由紀	リレー・フォー・ライフ・ジャパンイン愛媛実行委員会	・がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ」の実行委員として企画・運営・評価	実行委員
松井美由紀	第18回日本看護管理学会学術集会	・第18回日本看護管理学会学術集会（松山市開催）での運営	協力員
佐田榮司	有限責任中間法人日本リウマチ学会	リウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会の運営に参加。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人日本リウマチ学会中国四国支部会	中国・四国地区のリウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会中国四国支部の運営に参加。	評議員
佐田榮司	愛媛リウマチ研究会	愛媛県内のリウマチ診療の充実を図る目的で設立されている研究会の世話人として活動した。	世話人
則松良明	日本臨床細胞学会	臨床細胞学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
則松良明	日本臨床細胞学会	日本臨床細胞学会における春季大会、秋期大会の学術内容の企画に参画した。	コア・プログラム委員、プログラム委員
則松良明	日本臨床細胞学会	学会誌の査読を行う。	学会誌査読委員
則松良明	日本臨床細胞学会愛媛県支部	臨床細胞学愛媛県支部の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行。	幹事
坂東史郎	日本検査血液学会	血液検査学の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行、標準化事業の推進、国際化、認定制度の推進を基本として活動。	評議員
坂東史郎	日本臨床検査自動化学会	臨床検査の自動化に関する研究や技術の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行などを基本として活動。	評議員
坂東史郎	日本臨床検査自動化学会	毎年1回、血液検査機器技術セミナーを開催し、血液検査における種々の問題点を提起・討議し、広く一般会員に参加を呼びかけ、各施設における技術向上を目的とする。	血液検査機器技術委員会委員
坂東史郎	日本臨床検査自動化学会	日本臨床検査自動化学会会誌の論文査読を行い、論文の充実を図る。	編集委員会委員
坂東史郎	(社)日本臨床衛生検査技師会	血液検査の精度向上と標準化を目的に血液検査のサーベイ(血算部門、凝固部門、形態部門)を企画、実施する。そのデータを解析し報告書を作成して、精度向上と標準化を啓蒙していく。	精度管理調査WG委員
坂東史郎	四国臨床検査技師協議会 血液検査研究班世話人会	四国地区の臨床検査技師の知識の習得と検査技術の向上を目指して、年に2回の研修会を実施するための企画立案を行う。また、研修会では講師や実習指導を担当する。	監事
坂東史郎	四国ナノピア凝固・線溶研究会	四国地区での凝固・線溶検査の検討および医療における役割等に関し、情報交換や研究発表・講演等により会員相互の研鑽をはかると共に交流の場とする。研修会の企画立案や司会を担当する。	顧問

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
高田智世	愛媛県衛生検査所精度管理専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。</li> <li>衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席</li> </ul>	精度管理専門委員会委員
高田智世	松山市衛生検査所精度管理専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>松山市内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。</li> <li>衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席</li> </ul>	精度管理専門委員会委員
玉内秀一	一般社団法人 日本鉄鋼協会 評価・分析・解析部会	バイオフィアウリング、バイオフィルムによる環境及び医療に於ける問題点を解決するために工学・生物学の観点から解決策を検討するフォーラムの企画運営の推進	運営委員
玉内秀一	日本材料学会 医用・生体材料分科会	医用・生体材料の生物学的観点からの評価検討手法の確立及び工学領域への助言。また、本領域における若手研究者育成の推進	医用・生体材料分科会委員
野島一雄	日本生理学会	生理学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	学会評議委員
野島一雄	日本時間生物学会	時間生物学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	学会評議委員
野島一雄	日本臨床検査学教育協議会	臨床検査学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議委員
北尾孝司	(一社)愛媛県臨床検査技師会	臨床検査及び衛生検査に関する技術及び知識の向上並びに県民の衛生思想の普及及び啓蒙を通じて、医療及び公衆衛生の向上を図り、もって県民の健康の保持及び増進に寄与することを目的とする。	副会長

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
北尾孝司	(一社)愛媛県臨床検査技師会	臨床検査及び衛生検査に関する技術及び知識の向上並びに県民の衛生思想の普及及び啓蒙を通じて、医療及び公衆衛生の向上を図り、もって県民の健康の保持及び増進に寄与することを目的とする。	学会誌査読委員
北尾孝司	(一社)日本食品安全協会 四国支部	健康食品に関して消費者の安全性への保障を目的とし、消費者に適切な情報を提供するため健康食品等の効果、安全性、医療品との関係およびその取り扱い等について、科学的根拠のあるデータを基に国民の健康と福祉の増進に寄与することを目的とする。	学術理事
北尾孝司	日本臨床検査医学会中国 四国支部	臨床検査医学(臨床病理学)に関する学理およびその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互および内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学(臨床病理学)の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与する	評議員
		行政や各種関係団体の理事・委員等の活動数合計	<b>154 件</b>

# IV 学生の地域交流 活動報告

## IV 学生の地域交流活動報告

### 1. 学生ボランティア登録制度

#### 1) 運用実績

(1) ボランティア登録数 個人登録 49人、 団体登録 2団体 (2015.3.31 現在)

(2) ボランティア募集のメール発信呼びかけ件数

外部団体からの要請および地域交流センター事業 21件

(3) ボランティア活動の実績

① 学生ボランティア登録制度利用の実績

学生ボランティア登録制度利用の実績 (平成 26 年度)

	名 称	主 催	時 期	場 所	参加 学生数	活動の内容
1	北条育成園：五月祭	北条育成園 (愛媛県：障害者の 愛顔あふれる地域づ くり推進事業)	5月11日 (日)	北条育成園	STS 2名	屋台等の販売補 助、駐車場整 理、利用者介助
2	とべ子育て ぽっかぽかまつり	特定非営利活動 法人 ぽっかぽか (地域交流セン ター事業)	5月11日 (日)	砥部町 中央公民館	K&K 他 8名	全体受付他 遊びのブース
3	愛媛県障害者 スポーツ大会	愛媛県	5月25日 (日)	愛媛県総合 運動公園	STS 24名 K&K 4名 他 1名 計 29名	大会運営補助, ソフトボール投 げと立幅跳びの 表彰場への誘導 係
4	とべ子育てフェスタ	特定非営利活動 法人 ぽっかぽか (地域交流セン ター事業)	6月29日 (日)	砥部町 保健センタ ー	10名	お仕事体験ブー スのお手伝い (看護師、臨床 検査技師ブー ス)

5	大学生等への精神障害者理解促進モデル事業（フットサル交流を通じて）	愛媛県	6月～11月	愛媛フットサルパーク、万博フットサルクラブ	2名	松山精神障害者フットサルクラブ（オレンジスピリッツ）の全国大会のための練習サポートと応援活動
6	南風会バザー（原町夜市）	社会福祉法人南風会	8月2日（土） *天候不良のため中止	旧砥部町母子センター跡地	1名	会場設営、そうめん作り、バザーの手伝い、片づけ等
7	夏休みキッズひろば（看護体験&理科教室）	地域交流センター	8月7日（木）	本学別館	5名	子ども対象の「手洗い」「聴診」「おむつかえ」「理科実験」の体験
8	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーン及び街頭募金	愛媛県中予保健所、愛媛県薬物乱用防止指導員中予保健所地区協議会	8月8日（金）	伊予鉄高島屋前坊ちゃん広場	5名	通行人へ薬物乱用防止啓発資料の配布、並びに国連支援のための街頭募金の協力呼びかけ
9	「子どものいのちと体を守るお仕事体験」イベント	特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ（地域交流センター事業）	8月24日（日）	エミフルMASAKIグリーンコート	10名	お仕事体験ブースのお手伝い（看護師、助産師、臨床検査技師ブース）
10	「秋の全国交通安全運動」キャンペーン	松山南警察署	9月25日（木）	国道33号砥部車両計量所	9名	愛媛県立医療技術大学生参加による交通茶屋
11	砥部町社協福祉フェスタ	砥部町社会福祉協議会	10月19日（日）	砥部町中央公民館	3名	福祉フェスタイベントの運営支援（会場準備、イベント進行ほか）

12	愛媛県立中央病院 院内災害訓練	愛媛県立中央病 院	10月19日 (日)	愛媛県立中 央病院	7名	災害訓練におい て患者役等で参 加
13	おもしろ理科教室	地域交流 センター	10月25日 (土) 10月26日 (日)	本学北棟	3名  3名	子どもと保護者 対象の理科実験
14	リレー・フォー・ラ イフ (実行委員会)	えひめ 実行 委員会	11月1日 (土) 11月2日 (日)	城山公園	STS サ ークル 中心に 5名	実行委員会のメ ンバーとして企 画から参加
15	リレー・フォー・ラ イフ (リレー参加・ボランティ ア)	地域交流 センター	11月1日 (土) 11月2日 (日)	城山公園	93名	24時間リレー ウォークほか
16	世界エイズデー中予 地区街頭キャンペ ーン	愛媛県中予保健 所 松山市保健 所 南海放送 愛媛県臨床検査 技師会	11月30日 (日)	いよてつ高 島屋前 銀天街・大 街道出入口	7名	エイズに対する 正しい知識をの ぼり等で啓発、 啓発グッズの配 布

ボランティア参加学生数 (のべ) 197名 (リレー・フォー・ライフを含む)

## 2) 開設についての申し合わせ事項

学生ボランティア登録制度の申し合わせ事項である「学生ボランティア登録サイトの開設について」を、実情に合わせて一部改正した。ボランティア登録サイトの登録事項についても一部見直し、簡素化した。申し合わせ事項は本活動報告書 114 ページに掲載している。

## 2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流

ボランティア系サークル 5 つの地域貢献活動と学生自治会主催のクリーンアップ大作戦について紹介する。

## STS サークル 2014

代表 二宮 絵梨奈

私たち STS サークルは愛媛県内でボランティアサークルとして活動しています。学生それぞれが松山市社会福祉協議会からの「おせったい通信」や、各自で入手した情報、大学先生方からの依頼などから自分が参加したいボランティアを選択し、参加しています。

平成 26 年度としては次の活動を行いました。

- ・ 五月祭(北条育成園)
- ・ ぽっかぽか祭り(砥部町子育て支援団体ぽっかぽか)
- ・ 第 9 回 愛媛県障害者スポーツ大会(愛媛県総合運動公園)
- ・ 興居島祭り(興居島)
- ・ 南風会バザー
- ・ ラ・ファミリエ お仕事体験(エミフル MASAKI)
- ・ 交通茶屋
- ・ 若草福祉まつり ハーモニーフェスティバル(松山市中央児童センター)
- ・ あそぼうフェスタ＝市内児童センターまつり(城山公園)
- ・ リレー・フォー・ライフ・ジャパン in えひめ(城山公園)
- ・ 赤い羽根共同募金 街頭募金ボランティア(いよてつ高島屋前)
- ・ 松山市中央児童センター 年末もちつき大会&昔あそび大会(中央児童センター)

ボランティア活動は私たちに思いやりや新しい世界に飛び込む喜びだけでなく、自分にも社会のためにできることがあることを教えてくれます。辛いことや難しいこともあります。自分なりに考え、助け合いながら乗り越えています。この体験は私たちの財産です。今後も様々なボランティアに参加し、地域の方々に貢献すると同時に将来のための勉強をさせて頂けたらと思っています。



写真はリレー・フォー・ライフ・ジャパン in えひめ(城山公園)でのボランティアの様子です。

## Peer サークル紹介

代表：中平 有香

私たち Peer サークルは、愛媛県内の高校や大学等に行かせていただき活動を行っています。

Peer は「仲間」という意味があり、同世代の私たちと同じ目線・同じ立場で「性」について考え、自分自身と向き合い「相手のことだけでなく自分自身のことも思いやることが大切である」ことを感じてもらえるように活動しています。

「性」という言葉を聞くと、「恥ずかしい・人前では話しづらい」というイメージがあり、抵抗を感じる人も少なくありません。しかし、私は実際に活動をしていく中で「性」とは実は奥深いものだと思っています。性は自分とは切り離せないものであり、自分自身を知るきっかけにもなり得るものだと感じています。また、性に関する悩みを持っている人が多いことも事実です。その悩みを友達感覚で相談できる対象が私たちでありたいと心から思っています。同世代の私たちだからこそ打ち明けられることもあるのではないのでしょうか。それこそが Peer の活動の利点でもあります。活動をさせていただいている私たちも同時に学ばせてもらっていることが多く、対象の学生と一緒に成長できる場にもなっています。

私たちは先輩方が立ち上げ受け継いできた Peer サークルに誇りを持って活動しています。より多くの方々にこの活動を知っていただき、これからも活動の幅を広げていくことができるよう精進していきたいと思えます。



高校生に対して行っている様子。このように距離的に近い状態で話をすることで表情などの反応を見ながら進めていくことができます。

## 手話サークル Sign

部長 板坂 愛実

私たち手話サークル Sign は、毎週月曜日の放課後に活動しています。数年後、私たちは医療従事者として働くことになります。そのため活動内容として主に医療現場での会話となる医療手話を講師の方からご指導いただき勉強しています。

五月に砥部町で開催されました愛媛県障害者スポーツ大会に、私たち手話サークルから数名の部員がボランティアとして参加いたしました。しかし、実際に手話で選手を誘導することなどできず、手話を活かすことができない自分の努力と能力の不足に部員の多くが無力さを募らせました。

学生祭で毎年行っている手話コーラスを、砥部町内の方々や部員のご家族の方が見に来てくださり、「よかったよ」「感動した」というお言葉を多くいただきました。その時の嬉しさや喜びは、五月に痛感した無力さを払拭させるものでした。

五月に手話で無力さを経験したことは私たちの大きな糧です。週一回一時間という限られた時間で活動する私たちの手話能力は、微力なものに過ぎません。それでも手話コーラスや日々の活動を地道に続けながら、これからも地域の方々の笑顔を見られるように、部員一同邁進してまいります。



## 医技タット —H26 年度サークル紹介—

代表 早坂美咲

私たち医技タットは、H26 年設立の災害医療ボランティアサークルです。住居貧困問題に取り組む国際 NGO Habitat for Humanity の四国初の学生支部という一面がある一方で、災害医療に大きく貢献している DMAT で知られる日本集団災害医学会の学生部会 (DMAS) の四国支部 (四国 DMAS) との関わりもあります。

Global Village program (通称: GV) という海外ボランティア活動では、災害対応でフィリピンのバンタヤン島にて住居建築活動を行いました。活動したバンタヤン島は、ハイエン台風により 9 割以上の建物が被害を受けた貧困の進む島です。5 大学 14 名でチームを組み、9/2~9/11 の 10 日間の活動を行いました。日本では、全国にある学生支部との合宿にて、この GV やそれぞれの学生支部独自の活動についてプレゼンテーションやディスカッションを行い学びと交流を深めています。医技タットの独自の活動は、四国の学生支部ということを生かし、「東日本大震災に学び、南海トラフ地震に備える」という地域の防災活動です。設立初年度の今年は、8/24~8/26 の 3 日間で、岩手県と宮城県で沿岸部の視察と農地整備などのボランティアを行ってきました。こちらは 3 大学 12 名での活動となりました。大部分のメンバーが災害の少ないとても穏やかな西日本出身であり、東日本大震災の様子をテレビを通して見ただけであったため、3 年経った今であっても、その現実とのギャップにショックを受け、それぞれが何かを感じ、考える旅になりました。継続的に東北への支援を行うだけでなく、四国で同じような方を出来るだけ出さないように災害や防災についての啓発活動を行うことの大切さをひしひしと感じました。

日本集団災害医学会の学生部会である四国 DMAS では、香川大学医学部であった災害医療セミナーに参加し、本格的に災害医療について学習しています。こちらは、自分たちの専門分野という医療に関しても学び、有事の際には考え動ける学生になることを目指しています。

これらの国内外に及ぶ多面的な活動は、全て地域での防災・減災につながるものと考えています。初年度にも関わらず、愛媛新聞へ代表の記事が載り、南海放送ラジオへも出演させて頂きました。こちらは、愛媛の地震への関心が高い現れだと感じています。2 年目の活動は、初年度の経験をもとに、より地域に根ざした南海トラフ地震に対する具体的な家庭での防災や地域での防災についての学習を深め、外部へ発信していこうと考えています。



## 子育て支援サークル K&K

部長 上岡 奈月

私たち子育て支援サークル K&K は、ニンジニアスタジアムでの愛媛 FC の試合が行われる際、小さなお子さんを持たれるサポーターの方々が応援している間だけでも子供を預け、応援に安心して精を出せるようにと、ぽっかぽかさんが託児所を設置され、その運営のお手伝いをさせていただいていました。

今は部員不足となり平成 27 年 3 月末で廃部になりましたが、託児所のお手伝いの他、かんだパークという試合前に開かれる遊戯場のお手伝いや、砥部での地域の交流会に参加して、地域と大学とのつながりを大切に活動してきました。

廃部にはなったものの、サークルの枠を超え、大学が地域での母子保健活動に少しでも貢献できるようなきっかけのサークル活動が行えたのではと思っております。

このような形になってしまい、大変申し訳なく思っておりますが、今後も何かお手伝いできることがあれば地域にも出て活動したいと思っております。

---

### 自治会主催 クリーンアップ大作戦

11 月 29 日(土)に、クリーンアップ大作戦と球技大会を開催しました。クリーンアップ大作戦では学校周辺の美化活動を行い、約 50 名という多くの方々に参加していただきました。大学周辺及び地域のゴミは予想以上に多かったため驚きましたが、この清掃活動を通して環境美化に対する意識の向上、並びに地域・社会への貢献ができたと強く実感しています。



# V 地域への施設開放 状況

### Ⅲ 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用されている。

#### ○ストレッチ教室

活動概要：砥部町保険健康課、健康増進係（保健センター）がおこなっている、ストレッチ教室の火曜教室開催にあたり、施設開放をおこなっている。

開放場所：体育館

開放日時：毎週火曜日

開催回数：年間 37 回

利用者：砥部町住民

利用人数：30 人程度/回、延べ人数 1,010 人

<参考資料>



## VI 参考資料

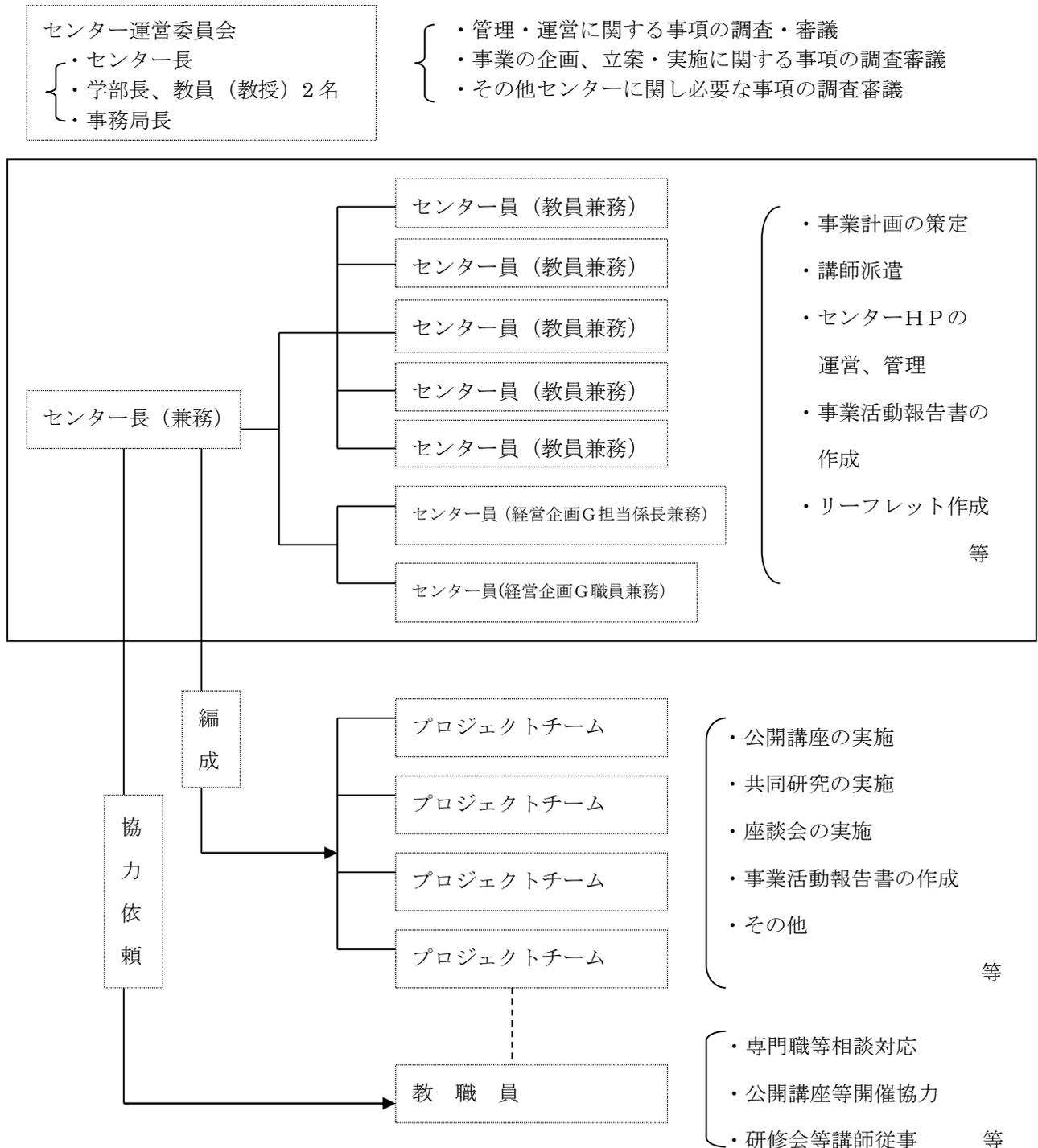
## VI 参考資料

### 地域交流センターの組織（平成 26 年 3 月 31 日現在）

事業の企画、実施のためセンター長の外、センター員 7 名（教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務）を配置している。

また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（委員 5 名）を設置している。

### 地域交流センター運営図



## 公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程

平成 22 年規程第 11 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則（平成 22 年規程第 2 号。以下「学則」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「大学」という。）が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする

- (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
- (2) 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
- (4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
- (5) その他大学の地域貢献に関する事業

(地域交流センター長)

第 4 条 地域交流センター長（以下「センター長」という。）は、センターに関する業務を統括する。

- 2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。
- 3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

(センター員)

第 5 条 第 3 条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。

- 2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を経て、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(地域交流センター運営委員会)

第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

(施設の利用)

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

## 公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

平成 22 年規程第 12 号

## (趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程（以下「運営規程」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

## (任務)

第 2 条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 管理及び運営に関する事項
- (2) 事業の企画立案及び実施に関する事項
- (3) その他センターに関し必要な事項

## (組織)

第 3 条 委員会は、委員 5 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地域交流センター長
- (2) 本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- (3) 事務局長

## (任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、会議の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

## (運営)

第 6 条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

## 学生ボランティア登録サイトの開設について

地域交流センター・学生委員会

2011年6月（改正2014年12月）

### 1. 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生ボランティア登録サイトを開設します。本学地域交流センター事業等へのボランティア募集にも活用します。

### 2. 登録の種類

#### (1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。

#### (2) 団体登録

ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

### 3. 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

### 4. 登録、紹介の流れ

